

茨城県教育財団文化財調査報告第432集

島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XXIV

平成30年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第432集

しまなくまやま
島名熊の山遺跡

島名・福田坪一体型特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 XXX

平成30年3月

茨城県
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和 52 年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県による島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に伴って実施した、茨城県つくば市島名熊の山遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

当遺跡は茨城県から委託を受け、平成 7 年度から平成 28 年度までにわたって約 26 万平方メートルについて発掘調査を実施し、その成果については、既に『茨城県教育財団文化財調査報告第 120 集』以下 19 冊を順次刊行しています。

今回の調査によって、古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や溝跡などが確認でき、遺跡北西部の集落の様相が明らかになりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県に対して厚く御礼申し上げるとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成 30 年 3 月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 野口 通

例　　言

- 1 本書は、茨城県の委託により、公益財團法人茨城県教育財團が平成27・28年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市鳥名闘ノ台1,376-1番地ほかに所在する鳥名熊の山遺跡13区・14区の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成27年 5月 1日～ 6月30日 (13区)
平成28年	4月 1日～ 7月15日 (14区)
整理	平成29年 5月 1日～ 7月31日
- 3 発掘調査は、平成27・28年度ともに副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

平成27年度		
首席調査員兼班長	駒澤 悅郎	平成27年 5月 1日～ 6月30日
首席調査員	兼子 博史	平成27年 5月 1日～ 5月31日
次席調査員	長洲 正博	平成27年 5月 1日～ 6月30日
調査員	天野 早苗	平成27年 5月 1日～ 6月30日
平成28年度		
首席調査員兼班長	奥沢 哲也	
次席調査員	長洲 正博	
調査員	大久保芳紀	
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、次席調査員大武宣隆が担当した。
- 5 出土した人骨については、調査終了後、結城郡八千代町大字沼森1,130番地の瑞穂光山宝蔵院金剛寺にて、供養、埋葬した。
- 6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等の資料は、一括して茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

凡　　例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 7,320 m, Y = + 20,200 mの交点を基準点（A 1 al）とした。なお、この原点は、日本測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C…、西から東へ1, 2, 3…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa, b, c…j、西から東へ1, 2, 3, …oと小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 al 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット PG - ピット群 SD - 溝跡 SE - 井戸跡

SI - 壑穴建物跡 SK - 土坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器

土層 K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■	赤彩・朱	■	炉・火床面
■	粘土範囲・黒色処理	■	鍊・鉄滓範囲
●	土器	○	土製品
□	石器	△	金属製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm, cm, gで示した。なお、現存値は()を、推定値は〔 〕を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 壑穴建物跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SD 518 → SD 580, SD 120 → SD 114, SE 248 → SE 250

欠番 なし

目 次

序
例 言
凡 例
目 次

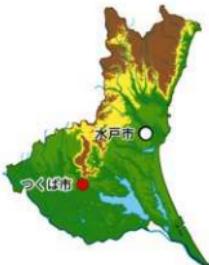
鳥名熊の山遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 13区の遺構と遺物	14
1 古墳時代の遺構と遺物	14
堅穴建物跡	14
2 平安時代の遺構と遺物	15
溝 跡	15
3 その他の遺構と遺物	20
(1) 溝 跡	20
(2) 土 坑	21
(3) 遺構外出土遺物	23
第4節 14区の遺構と遺物	24
1 平安時代の遺構と遺物	24
(1) 溝 跡	24
(2) 井戸跡	33
(3) 土 坑	35
2 江戸時代の遺構と遺物	39
墓 坑	39
3 その他の遺構と遺物	44
(1) 溝 跡	45
(2) 土 坑	45
(3) ピット群	50

(4) 遺構外出土遺物	52
第5節 まとめ	54
写真図版	PL 1 ~PL 6
抄録	

しまなくま やま 島名熊の山遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

島名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高 24 m の台地上から低地にかけて立地しています。遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、調査を平成 7 年度から平成 28 年度にわたり断続的に行ってています。今回報告する区域は、平成 27・28 年度に調査を行った 13・14 区で、面積は 4,233 m² で、遺跡北部の台地の平坦部から斜面部にあたります。



調査の内容

今回の調査では、古墳時代の竪穴建物跡 1 棟、平安時代の溝跡 7 条、井戸跡 1 基、江戸時代の墓坑 5 基などを確認しました。主な出土遺物は土師器（壺・^{つぼ}椀・高壺）、須恵器（壺・高台付壺・盤・甕）、金属製品（煙管）、錢貨などです。



平行して掘り込まれている第 114・580 号溝跡



第 250 号井戸跡



第 114・580・595 号溝跡交差部分を南東から



第 580 号溝跡からの出土遺物



第 7624 号土坑から出土した人骨

調査の成果

今回の調査で、東西に掘り込まれた第 114・580 号溝跡を確認しました。北部の東端から西端まで、平安時代の集落を区画する溝の一部であることが分かりました。溝の外側からは、井戸跡やごみを捨てるための土坑が見つかりました。この溝で、居住地と作業場等とを区別していたとみられます。溝跡には何度も掘り替えした痕跡があるので、長期間に渡って使われていたものと考えられます。

見つかった井戸跡は、直径 3m を超える大きなものです。残念ながら井戸枠は確認できませんでしたが、粘土が貼られたり礫が敷かれたりしており、これらが井戸枠を固定していたものと考えられます。

この後、江戸時代には、墓域として利用されていたようです。墓坑を 5 基、確認することができました。煙管や錢貨が出土しています。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成6年8月18日、茨城県知事は茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、平成6年9月19日から27日に現地踏査を、平成26年11月10日・11日、12月25日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成27年2月6日、平成28年1月29日、茨城県教育委員会教育長は茨城県土浦土木事務所長あてに、事業地内に島名熊の山遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成27年2月10日、平成28年1月29日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成27年2月16日、平成28年2月3日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成27年2月18日、平成28年2月15日、茨城県土浦土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成27年2月23日、平成28年2月17日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県土浦土木事務所長あてに島名熊の山遺跡の発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財團法人茨城県教育財團を紹介した。

公益財團法人茨城県教育財團は、茨城県土浦土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成27年5月1日から平成27年6月30日まで、平成28年4月1日から平成28年7月15日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

島名熊の山遺跡13区の調査は、平成27年5月1日から6月30日まで、同14区は平成28年4月1日から7月15日まで実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	13区		14区			
	平成27年度		平成28年度			
期間	5月	6月	4月	5月	6月	7月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■			■	
遺構調査		■	■	■	■	
遺物洗浄 注写真整理		■		■	■	
撤収					■	

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

今回報告する島名熊の山遺跡のうち平成27年度調査の13区は茨城県つくば市島名岡ノ台1376-1番地ほか、同28年度調査の14区は茨城県つくば市島名字中代1374-1番地ほかにそれぞれ所在している。

つくば市は筑波山を北端に、その南東へ延びる標高20~25m程の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦へ流入する桜川、西は利根川に合流する小貝川によって区切られている。両河川の間に、東から花室川、運沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川が北から南に向かって流れているため、台地は複雑に開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を含む海成層の成田層を基盤として、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色荒砂の砂礫層である竜ヶ崎層、さらに灰白色の粘土層である常総粘土層、そして表土下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積し、最上部は腐食土層となっている¹⁾。

つくば市南西部の島名地区は、谷田川と西谷田川によって開析された、狹長な台地上の中央部に位置している。当遺跡は谷田川に面した標高13~24mの台地上に立地し、遺跡の範囲は南北880m、東西560mである。当遺跡を囲むように周辺には谷津があり込み、台地基部から独立した南北700m、東西500mの島状を呈している。これまでの調査から、台地上に複数の埋没谷が入り込む様子が明らかとなっており、起伏に富んだ地形であったことがうかがえる。

今回報告する13・14区は、東・南・西側を谷津に囲まれた標高17~23mほどの緩斜面部に位置している。調査前の現況は、畠地及び宅地である。

第2節 歴史的環境

島名熊の山遺跡周辺の小貝川、西谷田川、谷田川、運沼川流域の台地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く存在している。ここでは、主に谷田川と西谷田川流域における遺跡について概観する。

旧石器時代は、平北田遺跡²⁾(37)、下河原崎谷中台遺跡³⁾(75)、元宮本前山遺跡⁴⁾(77)で石器集中地點が確認され、ナイフ形石器や角錐状石器、搔器、尖頭器をはじめ、石核や剥片などが出土している。また、島名前野東遺跡⁵⁾(7)、島名一町田遺跡⁶⁾(9)、島名境松遺跡⁷⁾(10)、島名ツバタ遺跡⁷⁾(16)でナイフ形石器や尖頭器、サイドスクリエイバー、面野井北ノ前遺跡⁸⁾(25)で荒屋型彫器、当遺跡でナイフ形石器や尖頭器、細石刃石核などが採集されており⁹⁾、当地域における石器製作と狩猟生活の様子を示す資料が蓄積されている。

縄文時代は、元宮本前山遺跡で早期の炉穴、下河原崎谷中台遺跡で早期の炉穴や中期から晩期にかけての建物跡、島名ツバタ遺跡で早期と中期の建物跡やフラスコ状土坑、島名境松遺跡で中・後期の建物跡や土器焼成遺構、土坑などがそれぞれ確認されている。これらの遺跡は河川を望む台地の縁辺部に立地し、特に早期の集落が西谷田川左岸で成立する様子がうかがえる。そのほか、各調査区で前期から後期にかけての土器片や石器、石斧、磨石、石皿などが採集されており、当時の人々の生活の痕跡をうかがうことができる。

弥生時代の遺跡は当地域では少なく、当遺跡でも12区の埋没谷周辺から後期後半の土器片が採集されているだけである。ただし出土した土器片には初痕が認められ¹⁰⁾、当地域の稲作を考える上で興味深い。

古墳時代前期になると、谷田川沿いに小規模な集落が点在するようになる。島名一町田遺跡では、南関東系の土器を伴う初期の集落が出現し、当遺跡や島名前野遺跡¹¹⁾（6）では集落跡、島名前野東遺跡では集落に付随した形で方形周溝墓3基が確認されている。また、面野井古墳群¹²⁾（28）では、方形周溝墓4基と円墳1基が確認され、周溝からは南関東系の装飾壺、及び底部穿孔壺の土師器が出土しており、谷田川上流域に南関東系の文化を持った集団が移住してきたことが明らかとなっている。特に第2号方形周溝墓からは、方台部に木棺直葬の埋葬施設が確認され、副葬品として石製の勾玉と管玉、ガラス製の玉類が出土し、県内でも貴重な調査事例である。

中期になると、集落が西谷田川沿いにも広がりを見せ、前述した遺跡に加えて島名ツバタ遺跡や谷田部漆遺跡（56）、上萱丸古屋敷遺跡¹³⁾（57）、真瀬三度山遺跡（58）などで集落跡が確認されている。特に、元宮本前山遺跡では滑石製模造品の製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では県内初の琴柱形石製品の出土が注目できる。これらの集落は、台地縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離をおいて営まれており、その立地や経営には台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強く考えられる。

後期になると、6世紀後半以降、台地全体に集落域が拡大していく様子が確認できる。当遺跡周辺では島名八幡前遺跡¹⁴⁾（3）、島名前野遺跡、島名前野東遺跡、平北田遺跡などの集落が継続して営まれており、当遺跡の集落は、近接するこれらの遺跡と補完し合う形をとりながら、古墳時代の終わりまで存続したものと考えられる。また、当該期は古墳が急増し、当遺跡南東部の台地先端部で径約19mと約8mの円墳2基が確認されている。当遺跡周辺では島名前野古墳（8）、島名楓内古墳群（13）、島名楓内西古墳群（14）、島名闇ノ台古墳群（18）、面野井古墳群、下河原崎高山古墳群（74）などがあり、いずれも径10~20mの小円墳を主とした構成からなる地域的な群集墳の在り方を示している。中でも、当遺跡の北側に隣接する島名闇ノ台古墳群は、全長約40mの前方後円墳と円墳27基が存在したと言われ、被葬者は島名地区の盟主的存在であった可能性が高い。

奈良時代になると、島名地区は急速に集落の再編が進んでいる。その背景には、律令国家の成立と国郡制の整備が考えられ、当地区は河内郡島名郷に編入される。当遺跡や島名八幡前遺跡の集落は、大型建物とそれに付随する掘立柱建物が中心で、いずれも真北を主軸とした配置をとるようになる。さらに、当集落の中央部にL字状に掘立柱建物群が配置され、郷閭連の官衙的施設の可能性も指摘されている。一方、7世紀に一旦集落が途絶えていた島名前野遺跡や島名前野東遺跡では、8世紀中頃に再び集落が形成される。それは、空閑地となっていた土地が、律令体制の進展と共に再開発の適地となつたためと考えられる。しかし、これらの遺跡以外に島名地区では集落が認められなくなり、当遺跡周辺だけに集落が集中する現象が認められる。

平安時代になると遺跡数はさらに減少し、現在集落として明確に捉えられるのは当遺跡と島名八幡前遺跡のみである。両遺跡では、鍛冶生産や紡績などの手工業関連の遺構・遺物が確認でき、9世紀への集落の継続性を考えたとき、極めて示唆的である。また、大規模な集落を残し、8世紀以来の集落が消滅していく状況は、律令体制の行き詰まりに伴う集落の再編成と考えることもできる。

また、当遺跡の南東部の斜面では湧水点に木枠を設置した水場が構築されており、その周辺からは多量の土器や木製品が出土している。特に「鶴名」と記された墨書き土器や人名が記された木簡が注目できる。この水場において、当集落の人々による祭祀行為の可能性が想定されている¹⁵⁾。9世紀の集落再編も10世紀を迎えると新たな展開を示し、島名八幡前遺跡の集落も終焉を迎えることになる。一方、当遺跡の集落はそれ以降も存続し、11世紀まで継続的に営まれている。その後の集落の様相は、不明瞭であるが、墓坑や井戸跡から平安時代末期と考えられる和鏡¹⁶⁾や小銅仏¹⁷⁾が出土しており、遺物の面から有力者の存在をうかがうことができる。

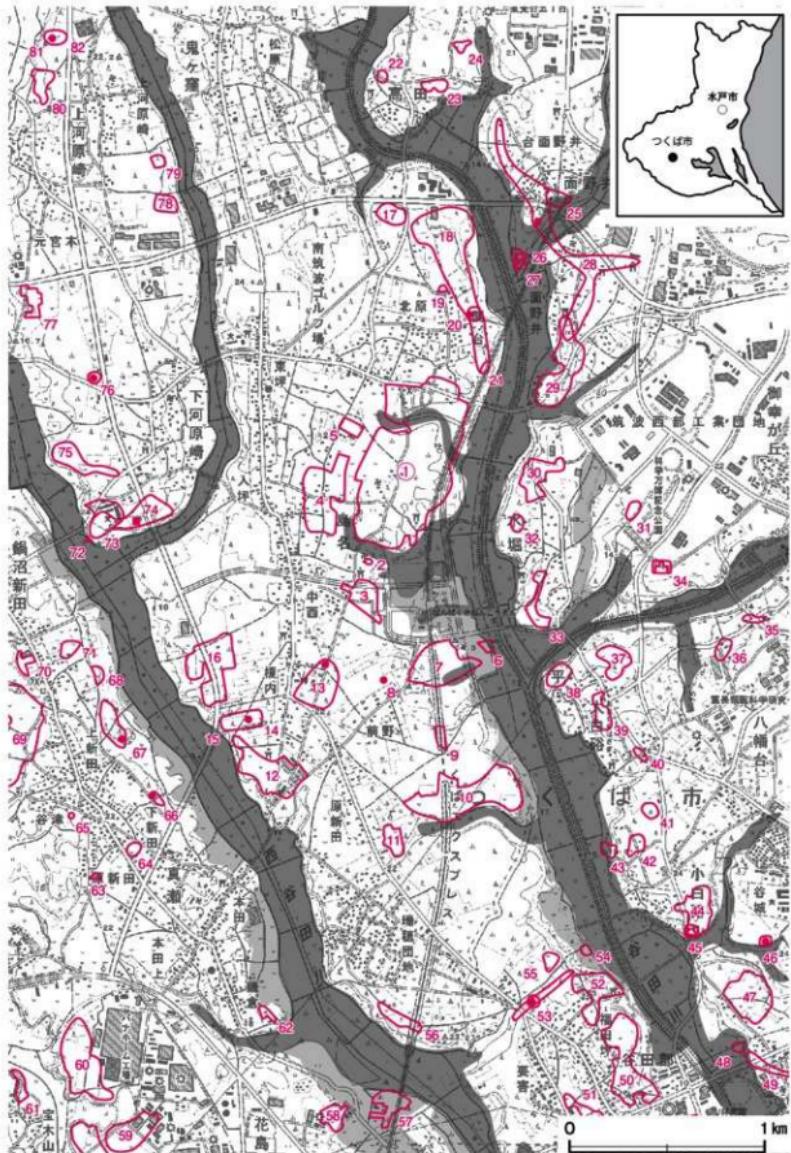
平安時代末期には、島名地区周辺は八条院領として立莊された田中莊に組み込まれ、鎌倉時代以降に田中莊は小田氏の支配下となる。当該期の周辺の遺跡は、平出氏の居城と伝えられる面野井城跡（27）や島名前野東遺跡がある。島名前野東遺跡では、方一町に巡る堀に囲まれた方形居館が確認され、島名地区一帯を治めていた有力者の居宅と思われる。永仁五年（1297）には、当遺跡の中央部西寄りに妙徳寺が開山し、当遺跡では梵鐘の乳や鉗口などの鋳型片が出土した铸造土坑が確認されている¹⁸⁾。また、15世紀後半から17世紀前半にかけての墓域が確認され、妙徳寺との関連をうかがうことができる。妙徳寺の周辺では幅5m、深さ2mの墓研堀が確認され、寺域周辺は防御施設としての機能も果たしていたことが明らかとなってきた¹⁹⁾。

※ 本章は、既刊の「島名熊の山遺跡」を参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

註

- 1) 日本地質『関東地方』編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 舟橋理『平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財團文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 3) a 高野裕履『下河原崎谷中台遺跡・島名フバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3』『茨城県教育財團文化財調査報告』第282集 2007年3月
b 斎藤真弥『下河原崎谷中台遺跡・下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4』『茨城県教育財團文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 高野裕履『元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2』『茨城県教育財團文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 5) a 寺門千勝・田原康司・梅澤貴司『島名前野東遺跡・島名境松遺跡・谷田部塚遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』『茨城県教育財團文化財調査報告』第191集 2002年3月
b 飯泉達司『島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』『茨城県教育財團文化財調査報告』第215集 2004年3月
c 小松崎和治『島名境松遺跡・島名前野東遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 XIV』『茨城県教育財團文化財調査報告』第281集 2007年3月
- 6) 鹿島直樹『島名一町田遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業及び常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財團文化財調査報告』第230集 2004年3月
- 7) a 佐野正『科学博闇連道路谷田部明野線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 ツバタ遺跡・高山古墳群』『茨城県教育財團文化財調査報告』第22集 1983年3月
b 萩川修『島名ツバタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1』『茨城県教育財團文化財調査報告』第203集 2003年3月
- 8) 鹿島直樹『島名開／台南B遺跡・面野井北ノ前遺跡 常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書2』『茨城県教育財團文化財調査報告』第231集 2004年3月
- 9) 酒井雄一・渡邊浩美・斎藤貴史・清水哲『島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書ⅩIII』『茨城県教育財團文化財調査報告』第280集 2007年3月
- 10) 稲田義弘・飯泉達司『島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書X』『茨城県教育財團文化財調査報告』第214集 2004年3月
- 11) 稲田義弘・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VI 島名前野遺跡』『茨城県教育財團文化財調査報告』第175集 2001年3月
- 12) 小林和彦『面野井古墳群 都市計画道路新都市中央通りバイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財團文化財調査報告』第391集 2014年3月

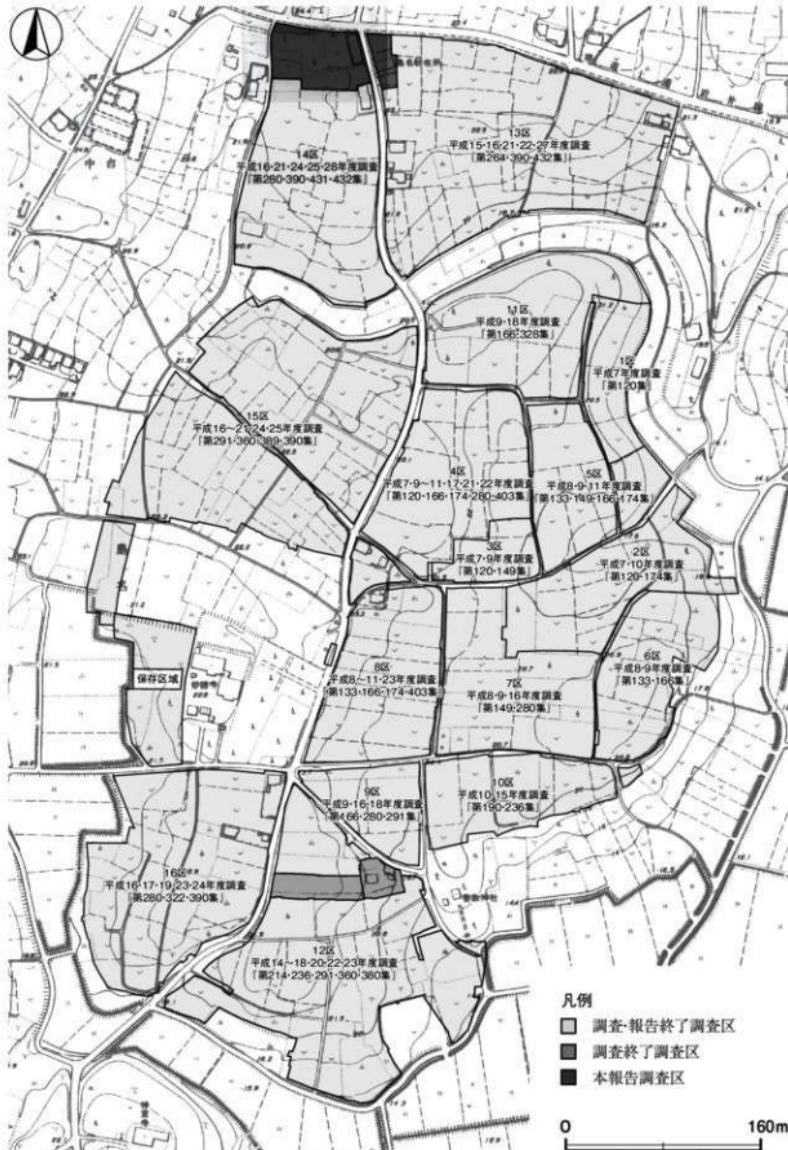
- 13) 白田正子「(仮称) 荘九地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山道路・古経敷遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第132集 1998年3月
- 14) a 青木仁昌「島名八幡前遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第201集 2003年3月
b 菊池直哉「島名八幡前遺跡 都市計画道路島名上河原崎線道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第283集 2007年3月
- 15) 清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XX」『茨城県教育財団文化財調査報告』第380集 2013年3月
- 16) 新井聰・川村満博「(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 島名熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第120集 1997年3月
- 17) 吉原作平・原信田正夫「(仮称) 島名・福田坪地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 島名熊の山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第149集 1999年3月
- 18) 註9と同じ
- 19) 麦子博史・坂本勝彦・田中万里子・櫻井二郎「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XX」『茨城県教育財団文化財調査報告』第390集 2014年3月



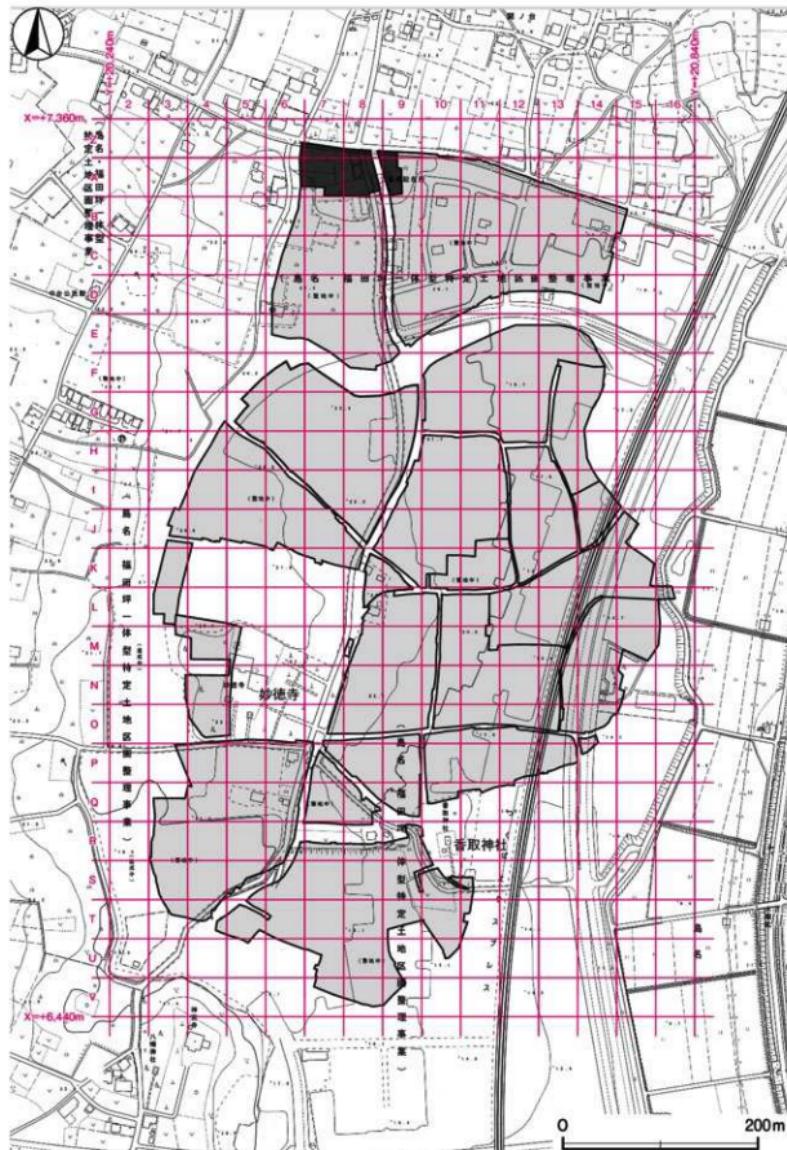
第1図 島名熊の山遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「谷田部」）

表1 島名熊の山遺跡周辺遺跡一覧表

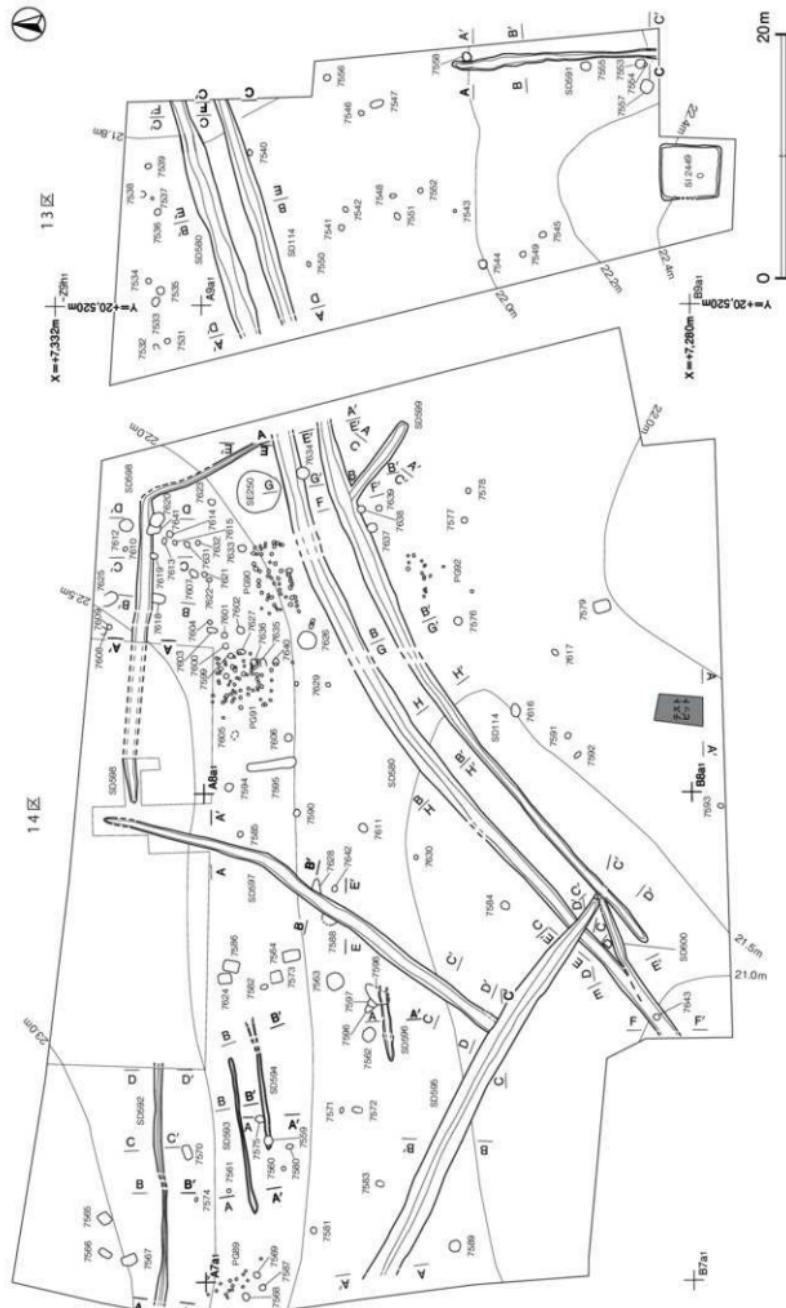
番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	島名熊の山遺跡	○	○	○	○	○	○	○	42	小白宿民部山遺跡			○			
2	島名薬師遺跡				○				43	小白宿水表遺跡			○			
3	島名八幡前遺跡				○	○	○		44	小白宿海道端遺跡	○			○	○	
4	島名本田遺跡				○	○	○	○	45	小白宿海道端塚群				○	○	
5	島名中代遺跡				○				46	谷田部カロウ塚古墳			○			
6	島名前野遺跡	○			○	○	○	○	47	谷田部台成井遺跡	○					
7	島名前野東遺跡	○	○		○	○	○	○	48	谷田部下成井遺跡	○				○	
8	島名前野古墳				○				49	谷田部台町古墳群			○			
9	島名一町田遺跡	○	○		○		○	○	50	谷田部福田前遺跡	○		○	○		
10	島名坂松遺跡	○	○		○				51	谷田部漆出遺跡	○		○	○	○	
11	島名タカドロ遺跡	○			○				52	谷田部福田遺跡	○		○			
12	島名榎内南遺跡	○			○	○			53	谷田部大堀遺跡				○	○	
13	島名榎内古墳群				○				54	谷田部山合遺跡	○			○	○	
14	島名榎内西古墳群				○				55	谷田部陣馬遺跡	○		○			
15	島名榎内遺跡				○				56	谷田部漆遺跡	○		○	○		
16	島名ツバタ遺跡	○	○		○		○	○	57	上萱丸古屋敷遺跡			○	○	○	
17	島名闇ノ台遺跡				○				58	真瀬三度山遺跡	○		○			
18	島名闇ノ台古墳群				○				59	二本松遺跡	○					
19	島名闇ノ台塚						○	○	60	西山遺跡	○			○	○	
20	島名闇ノ台南A遺跡				○	○			61	苗代山遺跡	○					
21	島名闇ノ台南B遺跡	○	○			○	○		62	真瀬戸崎遺跡			○	○	○	
22	高田和田台遺跡				○				63	真瀬西原遺跡				○	○	
23	高田遺跡					○	○		64	真瀬中畑遺跡	○		○			
24	高田原山遺跡				○	○			65	真瀬新田谷津遺跡	○					
25	面野井北ノ前遺跡	○			○	○	○	○	66	真瀬新田古墳群			○			
26	面野井西ノ台塚						○	○	67	真瀬堀附南遺跡	○		○			
27	面野井城跡						○		68	真瀬堀附北遺跡			○			
28	面野井古墳群				○				69	真瀬山田遺跡	○		○	○		
29	面野井南遺跡				○	○	○	○	70	真瀬山田北遺跡	○		○			
30	水堀下遺跡				○	○			71	鍋沼新田長峰遺跡	○		○			
31	水堀遺跡				○				72	下河原崎高山窪跡			○			
32	水堀屋敷添遺跡	○	○						73	下河原崎高山遺跡		○				
33	水堀道後前遺跡				○				74	下河原崎高山古墳群			○			
34	大和田氏屋敷跡							○	75	下河原崎谷中台遺跡	○	○	○	○		
35	柳橋仲畑遺跡				○			○	76	下河原崎古墳群			○			
36	柳橋遺跡				○			○	77	元宮本前山遺跡	○	○	○			
37	平北田遺跡	○	○		○	○	○	○	78	元中北東藤四郎遺跡			○			
38	平後遺跡				○		○	○	79	元中北鹿島明神古墳			○			
39	大白宿西ノ裏遺跡				○				80	上河原崎本田遺跡			○	○	○	
40	大白宿桜下遺跡				○				81	上河原崎小山古墳			○			
41	大白宿民部山遺跡				○				82	上河原崎八幡脛遺跡			○			



第2図 島名熊の山遺跡調査区割図（つくば市研究学園都市計画図 25,000 分の 1 から作成）



第3図 島名熊の山遺跡調査区設定図（つくば市研究学園都市計画図 2,500 分の 1）



第4図 烏名嶺の山遺跡 平成27・28年度調査遺構全体図

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

鳥名熊の山遺跡は、つくば市の南西部に位置し、谷田川右岸の標高13~24mの台地上に立地している。調査区は便宜上1~16区(第2図)に分けられており、今回の報告分は平成27年度に調査した13区813m²、平成28年度に調査した14区3,420m²についてである。

調査の結果、13区では堅穴建物跡1棟(古墳時代)、溝跡3条(平安時代2・時期不明1)、土坑28基(時期不明)を確認した。遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に3箱出土している。主な遺物は、土師器(壺・高壺・甕)、須恵器(壺・高台付壺・盤・甕)、石器(鐵)などである。

14区では溝跡11条(平安時代7・時期不明4)、井戸跡1基(平安時代)、土坑85基(平安時代6・江戸時代5・時期不明74)、ピット群4か所(時期不明)を確認した。遺物は、遺物収納コンテナ(同上)に6箱出土している。主な遺物は、土師器(壺・高壺・甕)、須恵器(壺・高台付壺・盤・甕)、土製品(勾玉・羽口)、石器(尖頭器・鐵・磨石・砥石)、金属製品(釘・煙管)、錢貨などである。

第2節 基本層序

当調査区は、標高17~23mの台地上から台地斜面部にかけて立地している。14区北部(B8a2区)に設定したテストピットで基本土層(第5図)の観察を行った。以下、観察結果から層序を説明する。

土層は11層に分層でき、第2~9層が開闢ローム層である。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。粘性は普通で、締まりは弱く、層厚は27~35cmである。

第2層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は6~14cmである。

第3層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は4~30cmである。

第4層は、にぶい黄橙色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は6~35cmである。

第5層は、褐灰色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は12~24cmである。第2黒色帯に相当する。

第6層は、明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は12~24cmである。

第7層は、にぶい黄橙色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは普通で、層厚は4~14cmである。

第8層は、灰黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、

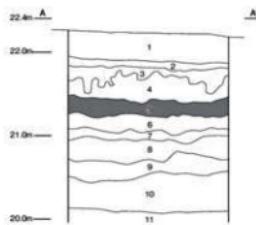
締まりは普通で、層厚は10~30cmである。

第9層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は10~26cmである。

第10層は、褐色を呈する常締粘土層への漸移層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は30~50cmである。

第11層は、灰白色を呈する常締粘土層である。粘性・締まりとともに強い。層厚は下層が未掘のため不明である。

なお、遺構は、第2層上面で確認した。



第5図 基本土層図

第3節 13区の遺構と遺物

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

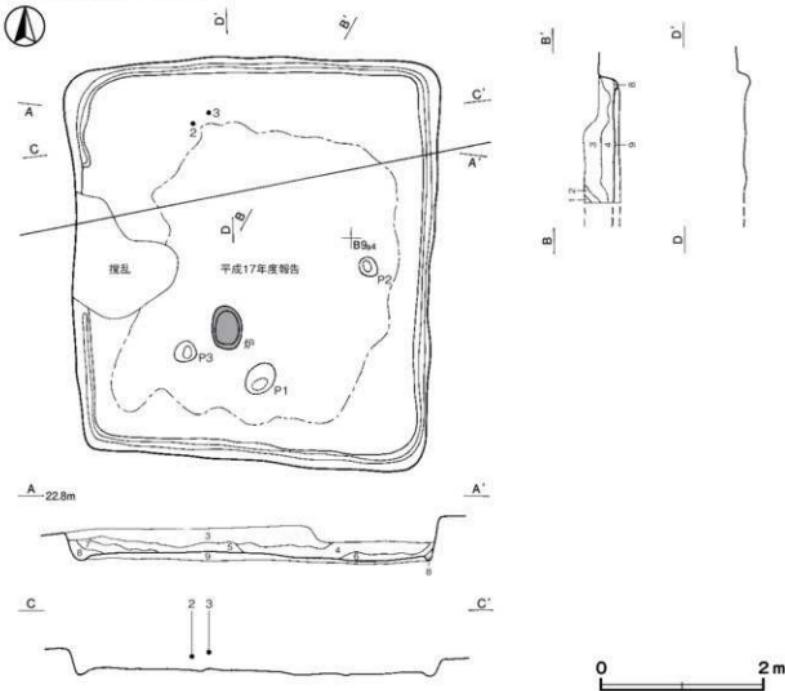
第2249号竪穴建物跡（第6・7図 PL 1）

調査年度 平成27年度に調査した。南部の大部分は、平成15年度に調査し、当財団調査報告『第264集』において報告している。

位置 調査区の南部のA 9j3区、標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸4.95m、短軸4.35mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁は高さ22~36cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は第9層を10cmほど埋め戻して構築している。壁下には壁溝が巡っている。



第6図 第2249号竪穴建物跡実測図

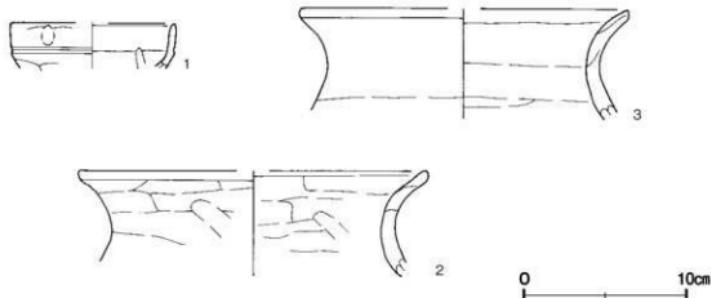
覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	燒土粒子・粘土粒子少量・ローム粒子微量
2	褐色	ローム粒子微量・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片103点(灰8, 白89, 薄6)が、出土している。2・3は、第4・5層の出土と考えられることから埋め戻しに伴う投棄である。

所見 『第264集』では、未調査部分である北壁に竈が構築された建物跡と推定しているが、今回の調査で北壁に竈を確認することはできなかった。竈は付設されていなかったか、壁溝の形状から、本来は西側に竈が構築されていたものが、廃絶後、搅乱により壊された可能性がある。時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。



第7図 第2249号竪穴建物跡出土遺物実測図

第2249号竪穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	口径	標高	底径	地 上	色 調	底成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坪	[10.0]	(2.8)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	口縁唇外・内面無ナデ 口唇部下端に沈着物のナデ 既述内面横段のナデ	覆土中	5%
2	土師器	甕	[21.0]	(6.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁唇外・内面横段のナデ 体部外表面横段のナデ	第4・5層	5%
3	土師器	甕	[20.1]	(6.8)	-	長石・石英	にじい橙	普通	口縁唇外・内面横段のナデ 壁を残す横ナデ 体部外表面のナデ 既述のナデ	第4・5層	5%

2 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡2条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

溝跡

第114号溝跡（第8・9図）

調査年度 平成27年度に調査した。13区のA 9a5～A 9i8区にかけては平成21年度に調査し、当財團調査報告『第390集』において報告している。A 9i9区から南部は平成15年度に調査し、同『第264集』において報告している。

位置 13区の北西部のA 8b0～A 9a5区、標高21mほどの埋没谷上に位置している。

規模と形状 A 8 b0 区から東方向 (N - 74° - E) に延び、A 9 a5 区まで直線状に 18.6m 続いている。A 8 b0 区以西は、第4節で報告する 14 区へ延伸している。規模は、上幅 0.82 ~ 1.72m、下幅 0.44 ~ 0.78m、深さ 17 ~ 62cm である。底面は高低差がなく、ほぼ平坦である。断面は U 字状で、壁面はやや外傾している。

覆土 3 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。断面形状から第1・2 層は掘り替えし後の覆土と考えられる。

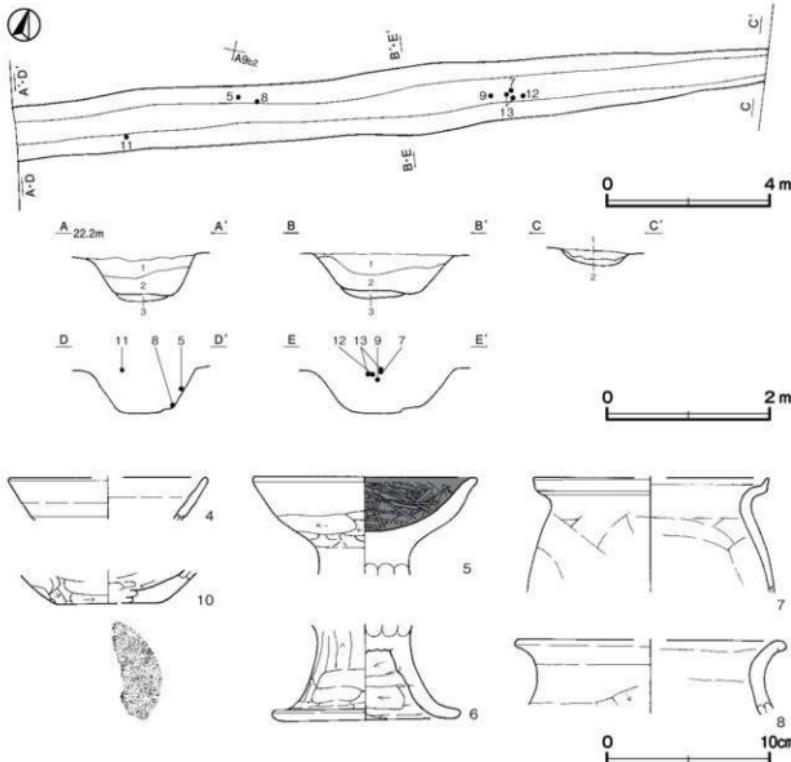
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

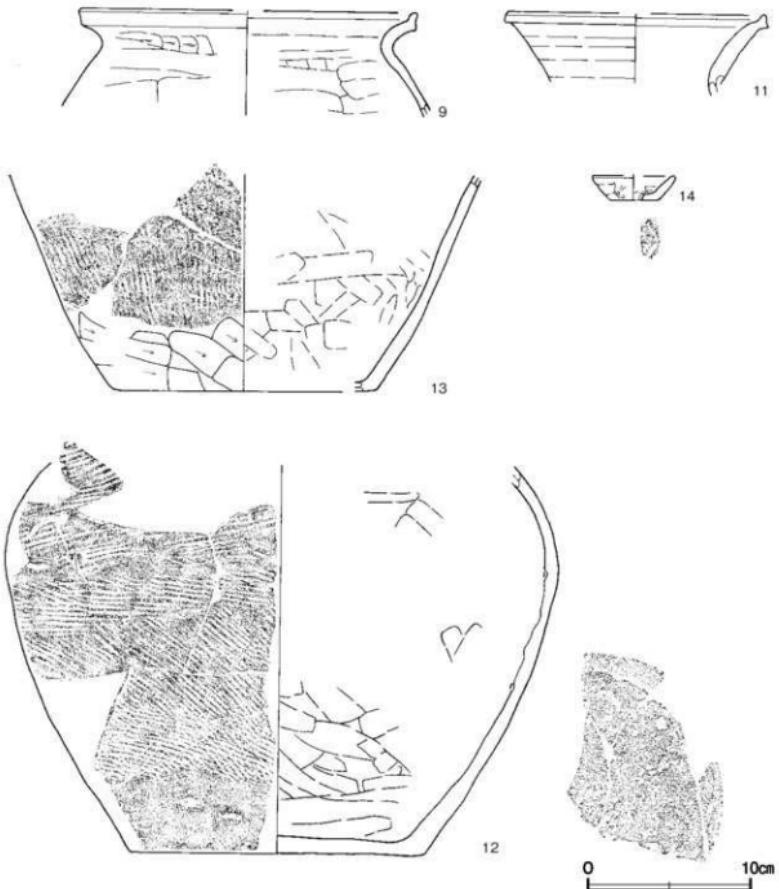
- 3 黄褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 168 点 (环 17, 高坏 5, 壺 5, 壺 138, 壺 2, ミニチュア土器 1), 須恵器片 22 点 (环 4, 高台付坏 2, 盖 1, 盆 2, 壺 13), 繩文土器片 1 点 (深鉢), 鉄滓 4 点 (11.3g) が、出土している。

所見 時期は、出土土器から、9世紀前葉から中葉に廃絶したと考えられる。性格は区画溝である。第4節 14 区も参照されたい。



第8図 第114号溝跡・出土遺物実測図



第9図 第114号溝跡出土遺物実測図

第114号溝跡出土遺物観察表（第8・9図）

番号	種 别	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
4	須恵器	环	[12.0]	(26)	-	長石・石英	灰	普通	体部外・内面クロナデ	覆土中	5% 断古集産
5	土師器	高环	13.6	(6.0)	-	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外側へラ削り 环部内面八字型き	第2層	60%
6	土師器	高环	-	(5.9)	11.6	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	脚部外側横位のヘラ削り	覆土中	40%
7	土師器	要	[14.4]	(7.0)	-	長石・石英・雲母	にふい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外側横位のヘラナデ 体部内面へラ削り	第1層	5%
8	土師器	要	[16.0]	(4.2)	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	にふい黄褐	普通	口縁部・体部内面横ナデ 体部外側へラ削り	第2層	5%
9	土師器	要	[20.6]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	にふい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面へラ削り	第1層	5%
10	土師器	要	-	(2.0)	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	にふい橙	普通	体部下端へラ削り 底部複数方向のヘラ削り	覆土中	5%

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	須恵器	甕	[155]	(49)	-	灰白・石英・雲母・赤色粒子	灰	普通	口縁部横ナデ	第1層	5% 汲み内窓産
12	須恵器	甕	-	(239)	[178]	灰白・石英・雲母	暗灰	普通	体部外面横・斜位の平行叩き 体部下位へラ削り 体部内面ナデ	第1層	30% PL 2 新古墳産
13	須恵器	甕	-	(134)	[164]	灰白・石英・雲母・赤色粒子	灰 黄	普通	体部外面横位の平行叩き 体部下位へラ削り 体部内面ナデ	第1層	10% 新古墳産
14	土師器	シートユツ 土器	[48]	15	[28]	灰白・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面横ナデ	覆土中	30%

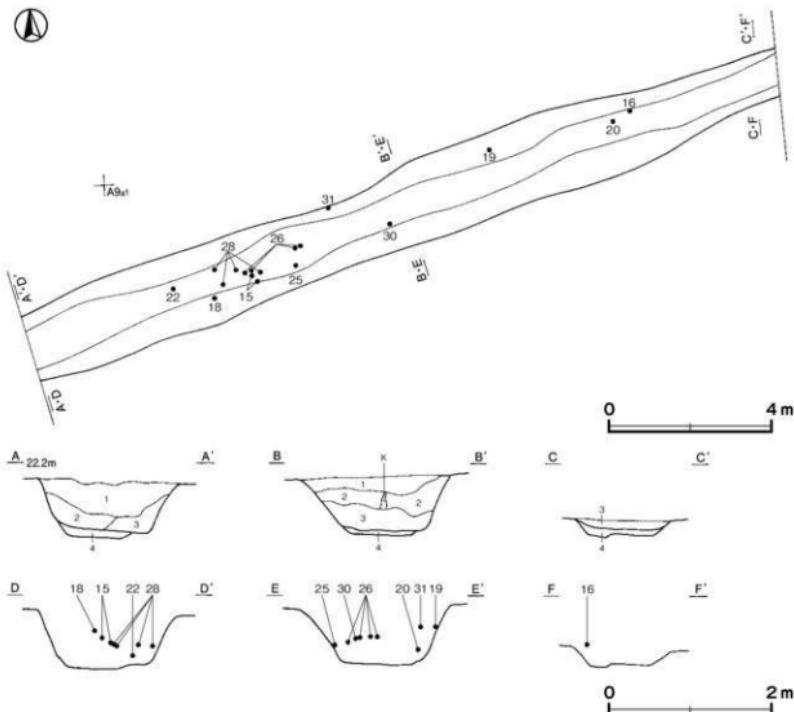
第580号溝跡（第10・11図 PL 1）

調査年度 平成27年度に調査した。14区のA7j5区からB6i7区にかけては平成24年度に調査し、当財団調査報告『第390集』において報告している。

位置 13区の北西部のA8b0～-Z9j5区、標高21mほどの埋没谷上に位置している。

規模と形状 A8b0区から東方向(N-74°-E)に延び、-Z9j5区まで直線状に19.2m続いている。A8b0区以西は、第4節で報告する14区へ延伸している。規模は、上幅1.22～2.06m、下幅0.62～1.16m、深さ18～92cmである。底面は高低差がなく、ほぼ平坦である。断面はU字形で、壁面は緩やかに外傾している。

覆土 4層に分層できる。第4層は自然堆積、第1～3層は人為堆積である。第4層と第1～3層では色調が異なることや、断面形状から、第1～3層は掘り替えし後の覆土と考えられる。



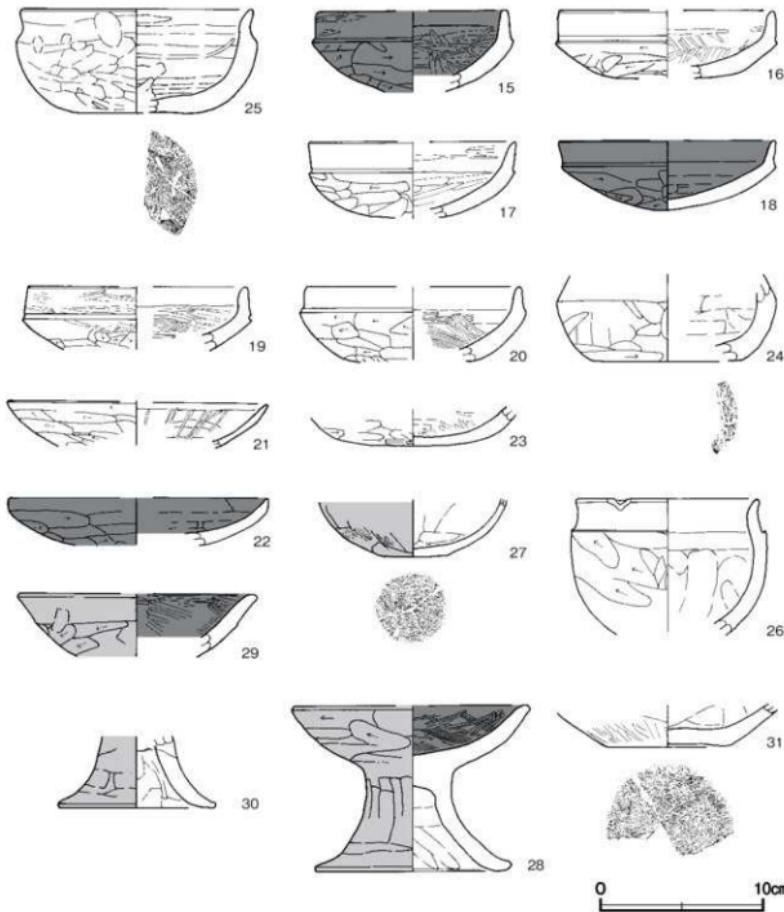
第10図 第580号溝跡実測図

土層解説

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 139 点(坏 40, 梢 2, 增 1, 高坏 8, 直 6, 壶 82)。須恵器片 3 点(坏)が、出土している。

所見 本跡は、『第 390 集』で 3 期にわたる掘り替えしの痕跡が報告されている。今回の調査での土層は、掘り替えしの I・II 期に相当するものと考えられる。時期は、重複関係から 8 世紀後葉の廃絶と判断できる。断面形状に掘り替えしの痕跡が見られることから、長期間継続した区画溝と考えられる。6 世紀後葉の遺物も出土しているが、埋め戻しに伴う流入と考えられる。第 4 節 14 区も参照されたい。



第 11 図 第 580 号溝跡出土遺物実測図

第 580 号溝跡出土遺物観察表（第 11 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	土師器	坪	[116]	(50)	-	長石・赤色粒子	黒・褐	普通	口縁部外輪横ナデ後へラ磨き 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 層	80%
16	土師器	坪	[132]	42	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外輪横ナデ 口縁下端に沈殿状ナデ 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 層	30% PL 2
17	土師器	坪	[126]	(47)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外輪横ナデ 底部外輪ヘラ削り 底部内面横方向へラ削り	覆土中	70% PL 2
18	土師器	坪	[130]	43	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 口縁下端に沈殿状ナデ 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 層	70% PL 2
19	土師器	坪	[133]	(39)	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 口縁下端に沈殿状ナデ 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 層	10%
20	土師器	坪	[132]	(46)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 層	30%
21	土師器	坪	[160]	(27)	-	長石・石英・雲母	黒・褐	普通	口縁部横ナデ 底部外輪ヘラ削り	覆土中	30%
22	土師器	坪	[160]	(29)	-	長石・石英・雲母	黒・褐	普通	口縁部横ナデ 底部外輪ヘラ削り	第 2・3 层	30%
23	土師器	坪	-	(24)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外輪ヘラ削り 体部内面横ナデ後へラ磨き	覆土中	5%
24	土師器	坪	-	(54)	[94]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外輪ヘラ削り 体部内面ナデ	覆土中	20%
25	土師器	桶	142	64	[70]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外輪ヘラナデ	第 2・3 層	40% PL 2
26	土師器	桶	110	(84)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外輪ヘラ削り 体部内面横ナデ	第 2・3 層	80% PL 2
27	土師器	坪	-	(36)	42	長石・石英	赤・褐	普通	体部外輪横ナデ 体部外輪ヘラ削り 体部内面ナデ	覆土中	30%
28	土師器	高坪	[142]	102	122	長石・石英	明赤褐	普通	体部外輪ヘラ削り 体部外輪ヘラ削り 体部内面ナデ	第 2・3 層	20% PL 2
29	土師器	高坪	[144]	(39)	-	長石・石英	山川・赤褐	普通	口縁部外輪横ナデ 口縁部内面ヘラ磨き	覆土中	30%
30	土師器	高坪	-	(45)	[96]	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外輪横ナデ 口縁部外輪ヘラ削り	第 2・3 层	30%
31	土師器	甕	-	(26)	7.6	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部外輪ヘナデ後底付へラ磨き 体部内面ヘナデ	第 2・3 層	5%

表 2 平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)					
114	A8b0～A9a5	N-74°～E	直線状	186	0.82～1.72	0.44～0.78	17～53	U字状	堆積	人骨 土師器、須恵器	SD595～SD600 →本跡
580	A8b0～9j5	N-74°～E	直線状	192	1.22～2.06	0.62～1.16	18～92	U字状	外縁	人骨 土師器、須恵器	本跡～SD595-600

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が明確でない溝跡 1 条、土坑 28 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡

第 591 号溝跡（第 12 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区の南東部の A 9f5 ～ A 9j6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 A 9f5 区から南方方向（N-117°～E）に延び、A 9j6 区まで直線状に 16 m 続いている。規模は、上幅 0.38 ～ 1.16 m、下幅 0.20 ～ 0.70 m、深さ 5 ～ 25 cm である。底面は南部が高く、北部に向かって 38 cm 下っている。断面は U 字状で、壁面は緩やかに外傾している。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

土層解説

1 黒 暗 色 ロームブロック少量

2 暗 暗 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片が 3 点出土しているが、細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器が細片であることから不明であるが、当財団調査報告『第264集』報告の第114号溝跡や、第116号溝跡などと並行あるいは直交しており、何らかの関係があると考えられる。性格は区画溝と考えられる。



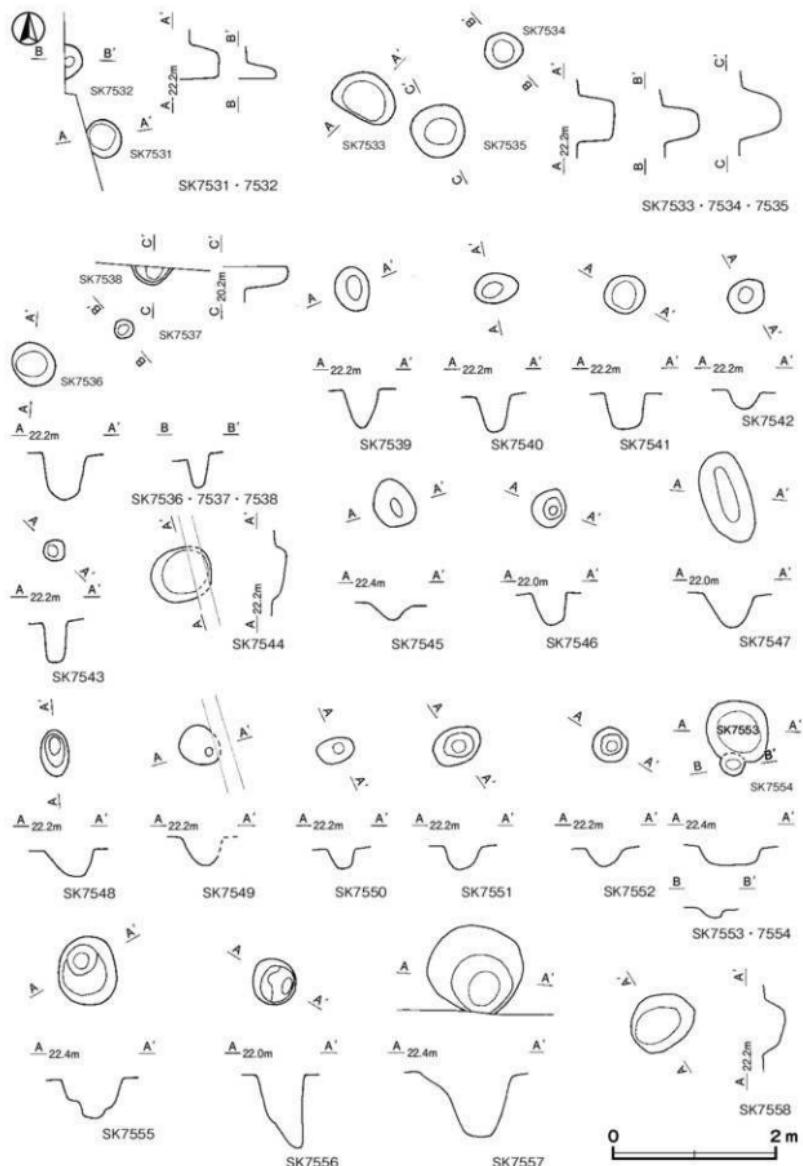
第12図 第591号溝跡実測図

(2) 土坑

時期や性格が明確でない土坑について、以下、一覧表及び実測図にて掲載する。

表3 その他の土坑一覧表

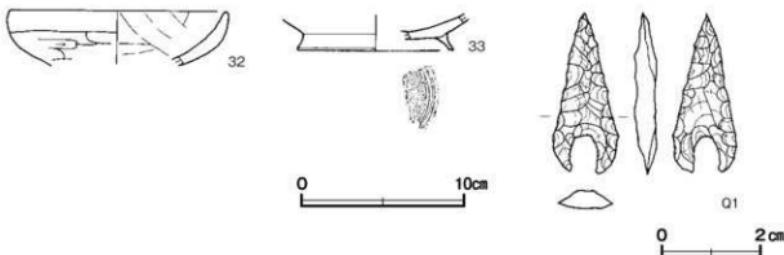
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
7531	-Z8j0	-	円形	0.48 × (0.44)	35	ほぼ直立	平坦	人為		
7532	-Z8j0	N - 2° - E	【椭円形】	(0.70) × 0.42	39	ほぼ直立	U字状	人為		
7533	-Z9j1	N - 57° - W	椭円形	0.77 × 0.57	46	直立	平坦	人為		
7534	-Z9j1	-	円形	0.48 × 0.45	45	ほぼ直立	皿状	人為		
7535	-Z9j1	-	円形	0.65 × 0.62	50	外傾	皿状	人為		
7536	-Z9j2	-	円形	0.55 × 0.53	57	ほぼ直立	皿状	人為		
7537	-Z9j3	-	円形	0.28 × 0.28	44	直立	皿状	不明		
7538	-Z9j3	-	【円形】	0.56 × (0.22)	27	直立	皿状	人為		
7539	-Z9j3	N - 21° - W	椭円形	0.54 × 0.44	49	ほぼ直立	皿状	不明		
7540	A9b4	N - 74° - E	椭円形	0.56 × 0.40	42	ほぼ直立	平坦	自然		
7541	A9c2	-	円形	0.50 × 0.48	43	ほぼ直立	平坦	人為		
7542	A9d2	N - 42° - E	椭円形	0.49 × 0.14	21	板状	皿状	自然		
7543	A9f2	-	円形	0.29 × 0.28	51	直立	平坦	人為		
7544	A9f1	N - 75° - W	椭円形	0.75 × 0.65	13	【ほぼ直立】 板状	平坦	人為		
7545	A9b2	-	円形	0.51 × 0.48	20	板状	皿状	人為		
7546	A9d4	N - 72° - E	椭円形	0.52 × 0.44	40	ほぼ直立	皿状	人為		
7547	A6d5	N - 16° - W	椭円形	1.14 × 0.62	41	【ほぼ直立】 外傾	皿状	人為	土解器	
7548	A9g3	N - 5° - W	椭円形	0.56 × 0.35	33	【ほぼ直立】 板状	平坦	人為	土解器	
7549	A9g2	N - 55° - W	椭円形	0.54 × 0.45	35	板状	皿状	人為		
7550	A9c1	N - 72° - E	椭円形	0.44 × 0.31	24	【ほぼ直立】 外傾	平坦	不明		
7551	A9e2	N - 57° - E	椭円形	0.61 × 0.45	29	外傾 板状	皿状	自然		
7552	A9e3	-	円形	0.43 × 0.41	23	板状	皿状	自然	土解器	
7553	A9j5	N - 40° - W	椭円形	0.87 × 0.77	23	板状	平坦	人為	陶文土器	本跡→SK7554
7554	A9j5	-	円形	0.30 × 0.29	11	板状	皿状	人為		SK7553→本跡
7555	A9h5	N - 22° - E	椭円形	0.84 × 0.26	47	ほぼ直立	有段	人為		
7556	A9c5	-	円形	0.58 × 0.54	94	【ほぼ直立】 外傾	有段	人為		
7557	A9j5	-	円形	1.12 × 1.06	75	【ほぼ直立】 板状	平坦	人為		
7558	A9f6	N - 57° - E	椭円形	0.82 × 0.72	19	外傾	有段	人為	陶器	



第13図 その他の土坑実測図

(3) 遺構外出土遺物(第14図)

遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



第14図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表(第14図)

番号	種別	器種	口径	肩高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	か付箋	出土位置	備考
32	土師器	耳	[13.6]	(3.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	におい非観	普通	口縁部横ナデ 体部外周横段のヘラ削り 体部内面横位のナデから口縁部に連続する斜位のナデ	SI2249 覆土中	10%	
33	須恵器	曲面鉢	-	(22)	[9.6]	長石・石英・赤色粒子	暗灰黄	普通	底部切欠へラ切り後高台貼付 体部外周横ナデ	SK7558 覆土中	10%	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	罐	34	13	0.4	1.37	チャート	円窓無茎罐	SD060 覆土中	PL. 2

第4節 14区の遺構と遺物

1 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、溝跡7条、井戸1基、土坑6基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

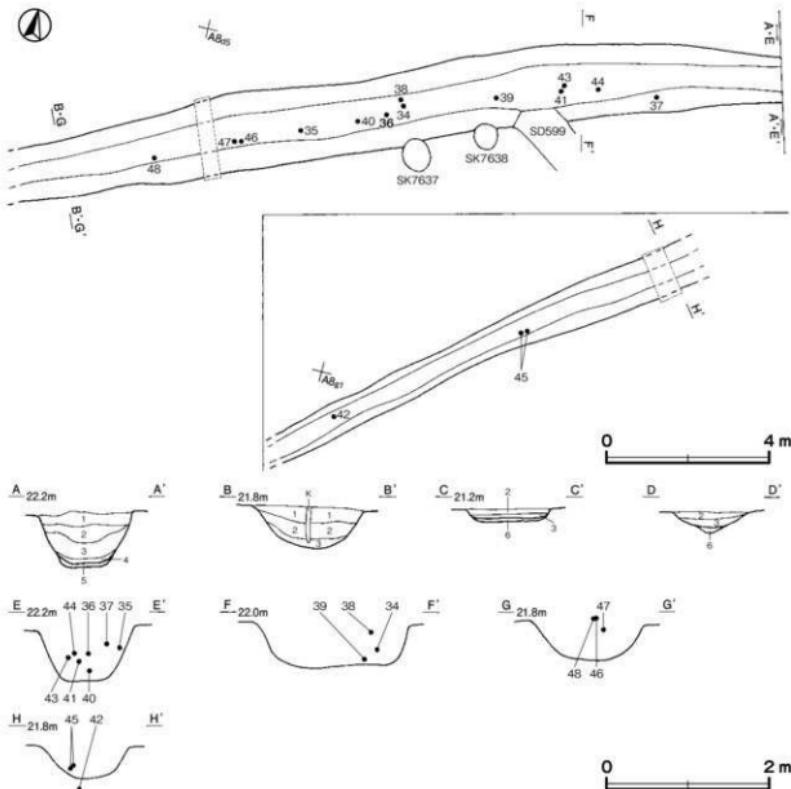
(1) 溝跡

第114号溝跡 (第4・15・16・17図 PL 3)

調査年度 平成28年度に調査した。第3節13区を参照されたい。

位置 14区の北西部のA8c8～A7j7[区]、標高21mほどの埋没谷上に位置している。

重複関係 第595・599・600号溝を掘り込み、第7637・7638号土坑に掘り込まれている。



第15図 第114号溝跡実測図

規模と形状 A 8c8区から西方向(N - 131° - W)に延び、A 7j7区まで直線状に58.7m続いている。A 8c8区以東は、第3節で報告した13区へ延伸している。規模は、上幅1.20 ~ 2.00 m、下幅0.44 ~ 0.98 m、深さ26 ~ 62 cmである。底面は北東部が高く、南西部に向かって53 cm下っている。断面はU字状で、壁は外傾している。

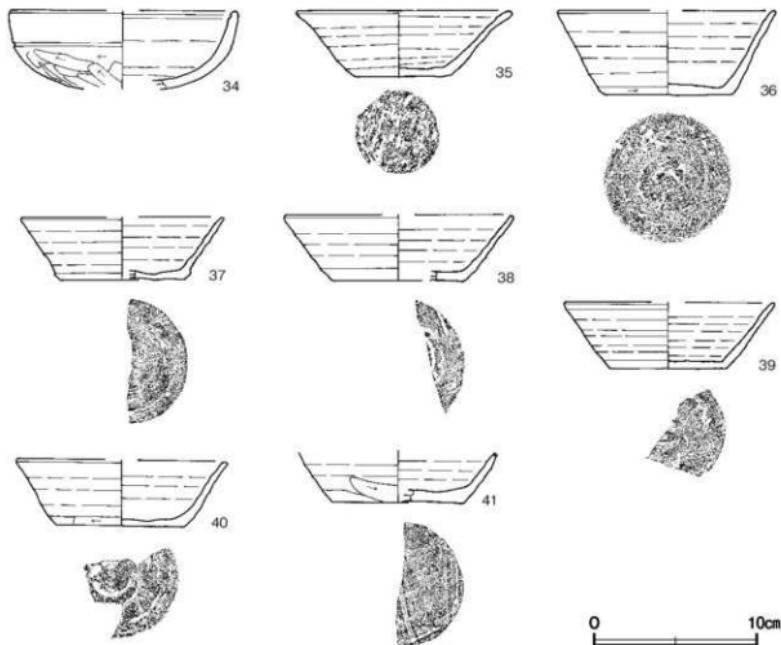
覆土 6層に分層できる。第5・6層はロームブロックを含む流入土である。第6層は最下層にあたり、鉄分粒子が沈殿した自然堆積である。第1~4層は、掘り替えし後の覆土である。第4層はロームブロックを含む流入土である。第1~3層はレンズ状の堆積状況を示した自然堆積である。

土層解説

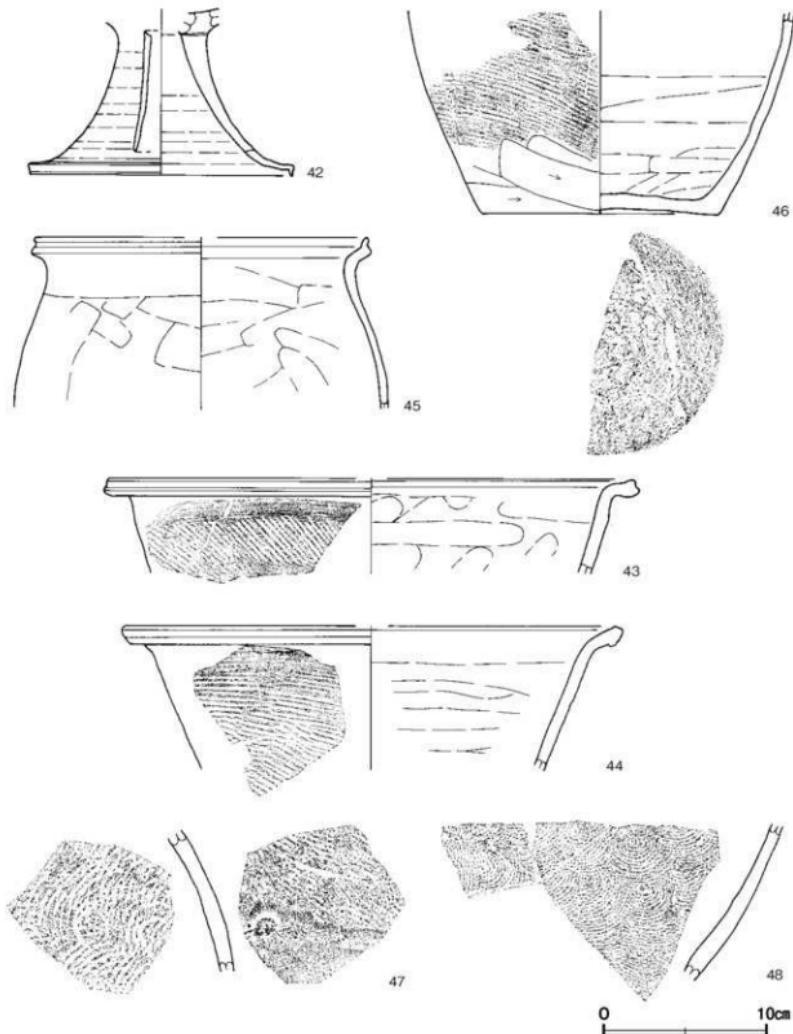
1 黒褐色	ローム粒子・地土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	粘土ブロック・黒色粒子・鉄分粒子中量、 ロームブロック少量
3 褐褐色	ローム粒子少量		
4 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土ブロック微量		

遺物出土状況 土師器片113点(坏3、甕110)、須恵器片91点(坏56、蓋2、盤2、高盤1、鉢2、短頸甕1、甕27)、不明土製品1点が、出土している。遺物は主に第2層から出土していることから、埋め戻しに伴う廃棄と考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀中葉に廃絶したと考えられる。長期間継続した区画溝と考えられる。



第16図 第114号溝跡出土遺物実測図(1)



第 17 図 第 114 号溝跡出土遺物実測図 (2)

第 114 号溝跡出土遺物観察表 (第 16・17 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
34	土器部	坏	[138]	(48)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横十ナメ 口縁部内面に沈澱状のナメ 底部へ2箇所	第 2 層	40% PL 5

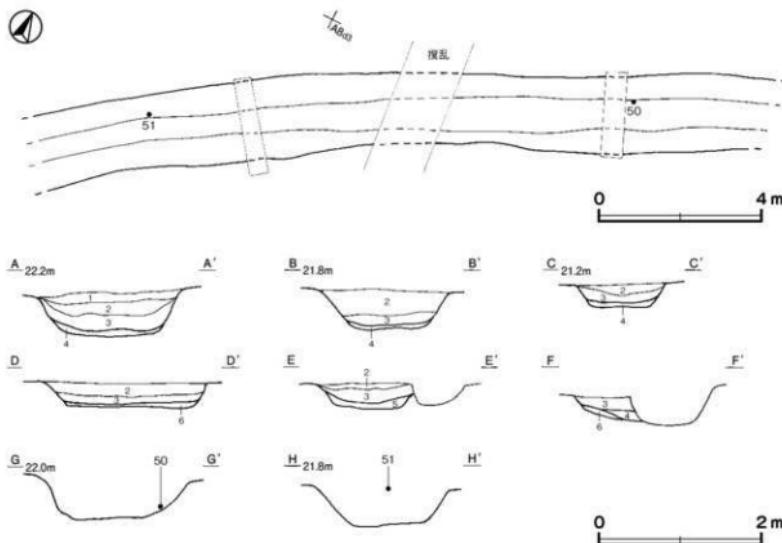
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
35	須恵器	环	13.1	4.2	5.1	長石・石英・雲母 赤	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部一方へのヘラ削り	第2層	60% PL 5 新旧窯業
36	須恵器	环	[133]	5.2	7.8	長石・石英・輝	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端回転ヘラ削り	第2層	70% PL 5 新旧窯業
37	須恵器	环	[123]	3.9	[77]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	第2・3層	30% PL 5 新旧窯業
38	須恵器	环	[140]	4.0	[80]	長石・雲母	黄灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後 一方へのヘラ削り	第2層	20% PL 5 新旧窯業
39	須恵器	环	[128]	4.1	[72]	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端ヘラ削り	第3・5層	20% PL 5 新旧窯業
40	須恵器	环	[128]	4.1	[78]	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ 削り 底部回転ヘラ削り後一方へのヘラ削り	第2層	30% PL 5 新旧窯業
41	須恵器	环	-	(32)	[80]	長石・石英・ 黑色粒子	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端手持ちヘラ 削り 底部一方へのヘラ削り	第2層	40% PL 5 新旧窯業
42	須恵器	高盤	-	(102)	[161]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 三方透かし	第3・5層	10% PL 5 新旧窯業
43	須恵器	鉢	[324]	(5.8)	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外側斜位の平行 引き	第2層	5% PL 5 新旧窯業
44	須恵器	鉢	[300]	(8.9)	-	長石・雲母	褐	普通	体部外側斜位 横位の平行引き 体部内横位の 指ナデ	第1層	5% PL 5 新旧窯業
45	土師器	甌	[204]	(10.6)	-	長石・石英・雲母 白色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	第2層	20% PL 5 新旧窯業
46	須恵器	甌	-	(124)	14.6	長石・石英・雲母 黄色粒子	灰	普通	体部外側斜位の平行引き 体部下端ヘラ削り 体部 内面ヘラナデ	第1層	5% PL 5 新旧窯業
47	須恵器	甌	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部斜位の平行引き 体部内面同心円文の道具痕	第2層	5% PL 5 新旧窯業
48	須恵器	甌	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母	暗灰黄	普通	体部外側斜位内凹引抜き 体部内面ヘラナデ 体部 内面下端横ナデ	第1層	5% PL 5 新旧窯業

第 580 号溝跡 (第 4・18・19 図 PL 3)

調査年度 平成 28 年度に調査した。第 3 節 13 区を参照されたい。

位置 14 区の北西部の A 8b8～A 7j6 区、標高 21 m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 595・600 号溝、第 7634 号土坑に掘り込まれている。第 7643 号土坑との新旧関係は不明である。



第 18 図 第 580 号溝跡実測図

規模と形状 A 8 b8 区から西方向 (N - 131° - W) に延び、A 7 j 6 区まで直線状に 50.5 m 続いている。A 8 b8 区以東は 13 区へ延伸している。規模は、上幅 0.70 ~ 1.92 m、下幅 0.32 ~ 1.04 m、深さ 28 ~ 52 cm である。底面は北東部が高く、南西部に向かって 80 cm 下っている。断面は U 字型で、壁は外傾している。

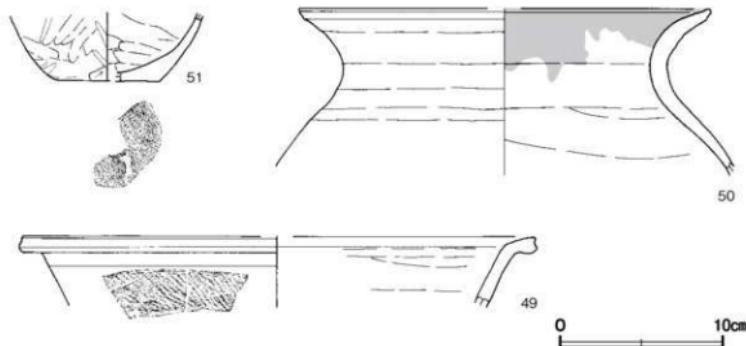
覆土 6 層に分層できる。当財団報告『第 390 集』において、本跡の掘り替えしについて報告しており、今回の調査においても土層堆積状況や断面形状から複数回の掘り替えしが認められる。今回の調査では、第 I 期は第 5・6 層に、第 II 期は第 1~4 層にあたり、掘り替えしの第 III 期は、覆土の様子から第 600 号溝跡につながっていくことが分かった。また、第 1~4 層は 13 区の第 1~4 層に相応する。

土層解説

1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量	6 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点 (深鉢)、土師器片 80 点 (甕), 須恵器片 16 点 (壺 9, 盖 1, 鉢 1, 甕 5), 刻片 (メノウ) 1 点が、出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に廃絶したと考えられる。『第 390 集』の所見と同様に掘り替えしの痕跡が見られることから、長期間継続した区画溝と考えられる。



第 19 図 第 580 号溝跡出土遺物実測図

第 580 号溝跡出土遺物観察表 (第 19 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
49	須恵器	鉢	[31.4] (44)	-	長石・石英・雲母	輪 打	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 体部斜傾の平行彫き 体部内面ハラナデ	覆土中	5 % 新出遺産	
50	土師器	甕	[25.1] (103)	-	長石・石英・雲母	にぬい痕有	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	第 3 層	5 %	
51	土師器	甕	-	(42)	[6.4]	長石・石英・赤色粒子	黒 褐	普通 体部外面ヘラナデ後ヘラ彫き 体部外面下段ヘラ 彫り 体部内面横ナデ 尾部一方のヘラ彫り	第 2 層	10 %	

第 595 号溝跡 (第 4・20 図 PL 3)

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北西部の A 7 d1 ~ A 7 i 8 区、標高 21 ~ 20 m ほどの埋没谷上に位置している。

重複関係 第 597・580 号溝を掘り込み、第 114・600 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 A7d1区から南東方向(N=115°-E)に延び、A7i8区まで直線状に36.0m続いている。

規模は、上幅0.95~2.38m、下幅0.36~0.58m、深さ74~90cmである。底面の高低差はほとんどないが、西に向かって高くなる地形のため、相対的に西部は深い。断面は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

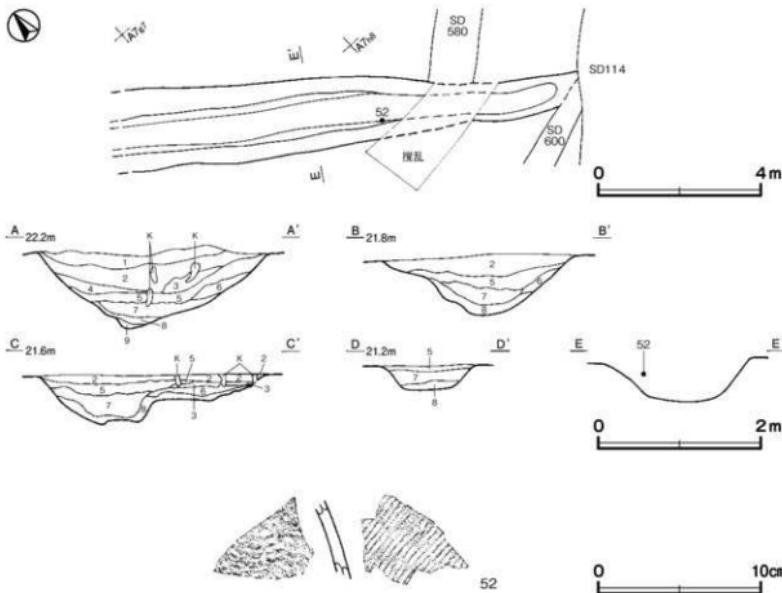
覆土 9層に分層できる。レンズ状の堆積状況ではないが、緩斜面に位置しているため、自然堆積と考えられる。ロームブロックは流入によるものである。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ロームブロック少量	8 暗褐色	ローム粒子多量
4 暗褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック多量
5 暗褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 純文土器片1点(深鉢)、土師器片56点(环36、甕20)、須恵器片3点(甕)、鉄滓(11.02g)が、出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉に廃絶したと考えられる。



第20図 第595号溝跡・出土遺物実測図

第595号溝跡出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	口径	厚さ	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	須恵器	甕	-	(48)	-	長石・雲母	にぼい黄褐	不良	体部斜傾の平行叩き 体部内面同心円文の当具痕	第7層	5% 新治窓産

第 597 号溝跡 (第 4・21 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北西部の -Z 7 h 0 ~ A 7 f 6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 7580・7628 号土坑を掘り込み、第 595 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 -Z 7 h 0 区から南方向 (N = 166° - W) に延び、A 7 b 9 区から南西方向 (N = 147° - W) に屈曲し、A 7 f 6 区まで直線状に 36.7 m 続いている。規模は、上幅 0.58 ~ 1.48 m、下幅 0.38 ~ 0.82 m、深さ 34 ~ 56 cm である。底面は、北部が高く、南部に向かって 174 cm 下っている。断面は U 字状で、壁は外傾している。

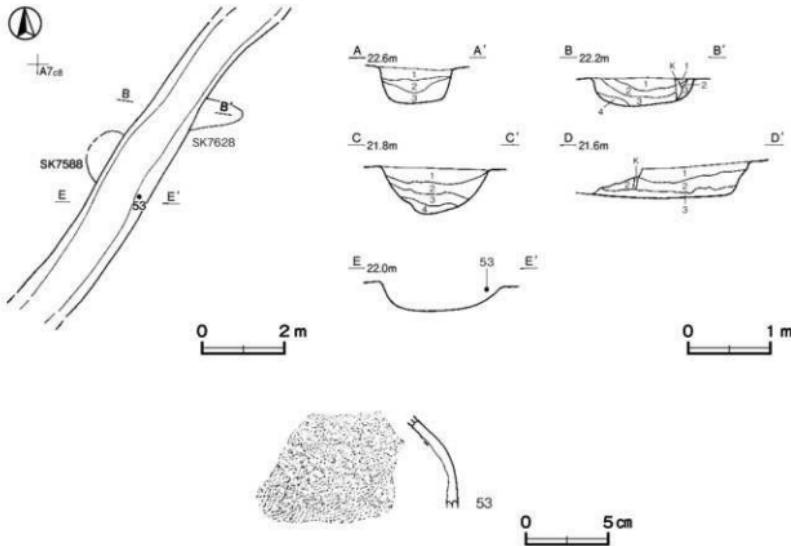
覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量	3 黒褐色 ローム粒子中量
2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 黒褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 土器片 18 点 (坏 4、甕 14)、須恵器片 1 点 (甕) が、出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 9 世紀前葉には廃絶したと考えられる。



第 21 図 第 597 号溝跡・出土遺物実測図

第 597 号溝跡出土遺物観察表 (第 21 図)

番号	種別	器種	口径	容積	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	須恵器	甕	-	(57)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面同心円文叩き	第 1 層	5% 新治窯面

第 598 号溝跡（第 4・22 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北部の -Z 7 i0 ~ A 8 b8 区、標高 22m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 7618 号土坑を掘り込み、第 7619・7620・7641 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 -Z 7 i0 区から東方向 (N - 95° - E) に延び、-Z 8 i7 区から南東方向 (N - 152° - E) に屈曲し、A 8 b8 区まで L 字状に推定 35.0 m 続くうち、21.5 m を確認した。規模は、上幅 0.36 ~ 1.30 m、下幅 0.12 ~ 0.72 m、深さ 10 ~ 34 cm である。底面は西部が高く、南部に向かって 85 cm 下っている。断面は、浅い U 字状で、壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

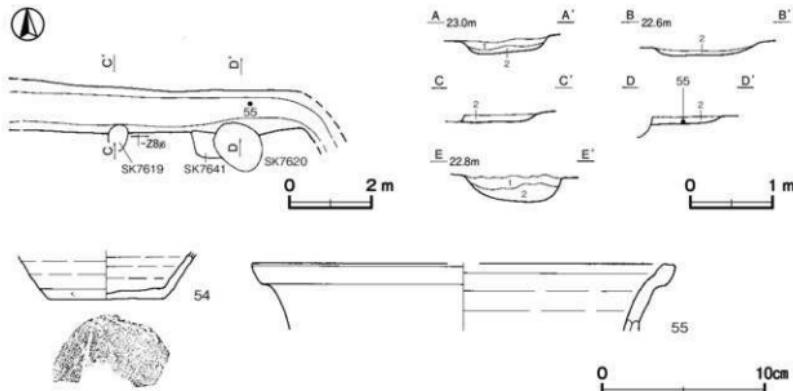
土層解説

1 埋 間 色 ローム粒子少量

2 暗 橙 色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 7 点(壺 1, 壺 6)、須恵器片 3 点(壺 2, 壺 1)、鉄滓 3 点(571.67 g)が、出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から 9 世紀前葉に廃絶したと考えられる。



第 22 図 第 598 号溝跡・出土遺物実測図

第 598 号溝跡出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
54	須恵器	環	-	(29)	7.2	長石・石英・雲母	灰 黄	普通	外沿部 内面クロナデ後各部下端回転ヘラ削り 或は同一方向のヘラ削り	覆土中	20% 割合高確
55	須恵器	壺	[26.0]	(4.1)	-	長石・石英・雲母	黑 閃	普通	口縁部 内面横ナデ	第 2 層	3% 割合高確

第 599 号溝跡（第 4・23 図 PL 3）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北東部の A 8 e8 ~ A 8 d7 区、標高 22m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 114 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 A 8e8区から北西方向(N - 54° - W)に延び、A 8d7区まで直線状に7.6m続いている。規模は、上幅0.95~1.12m、下幅0.46~0.52m、深さ60cmである。底面は、高低差がなく、ほぼ平坦である。断面は、U字型で、壁は外傾している。

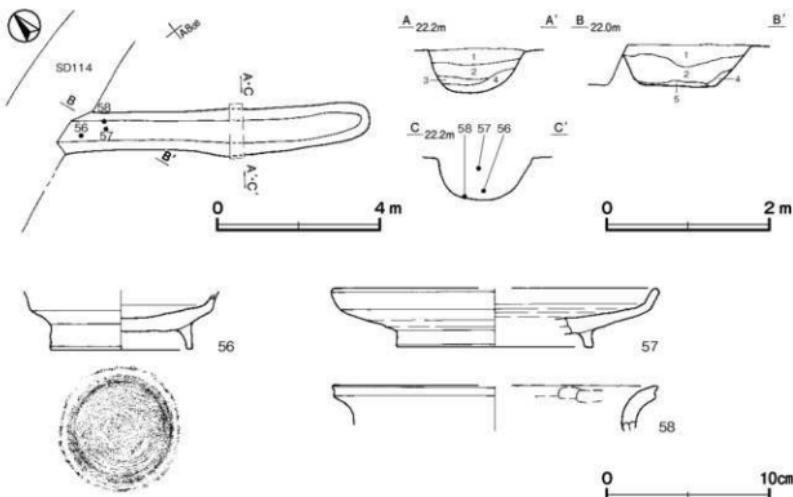
覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 青褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 士器片22点(坏3、甕19)、須恵器片8点(坏4、高台付坏1、盤1、甕2)が、出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から9世紀前葉に廃絶したと考えられる。



第23図 第599号溝跡・出土遺物実測図

第599号溝跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
56	須恵器	高台付坏	-	(36)	86	灰石・石英・雲母・黑色粒子	黒褐色	普通	底部回転ウタ切り後高台貼付	第5層	50% PL 5 断面重複
57	須恵器	盤	[198]	36	[120]	灰石・石英・雲母	灰	普通	口縁部クロナデ 底部高台貼付	第2層	30% PL 5 断面重複
58	土器器	甕	[200]	(28)	-	灰石・石英・赤色粒子	にぶい灰	普通	口縁部内外面横ナデ	第5層	5%

第600号溝跡（第4・24図 PL 3）

調査年度 平成28年度

位置 A 7i8~A 7j6区、標高21mほどの埋没谷上に位置している。

重複関係 第580・595号溝を掘り込み、第114号溝に掘り込まれている。

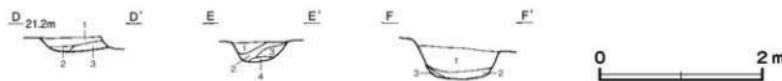
規模と形状 A7i8区から南西方向(N-120°W)に延び、A7j6区まで直線状に12.2m続いている。規模は、上幅0.72~0.88m、下幅0.28~0.44m、深さ16~29cmである。底面は、高低差がなく、ほぼ平坦である。断面はU字状で、壁面は外傾している。

覆土 4層に分層できる。各層にブロックが含まれていることから、埋め戻されている。また、本跡の覆土は、当財団調査報告『第390集』で報告された第580号溝跡の掘り替えし第Ⅲ期に相当すると考えられる。

土層解説

1 黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック微量
2 黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック・黒色粒子微量	4 黒褐色 ロームブロック少量、黄褐色粘土ブロック微量

所見 時期は、遺物が出土していないが、覆土は『第390集』で報告された第580号溝跡の掘り替えし第Ⅲ期に相当する土層と考えられることから、9世紀中葉以前に廃絶したと考えられる。



第24図 第600号溝跡実測図

表4 平安時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	幾何学				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
114	A7i7-A8c8	N-131°-E	直線状	587	120~200	0.44~0.98	26~62	U字状	外傾	人為	土師器、須恵器	SD590-599-600→ 本跡→SK7637-7638
580	A8b8-A7i6	N-48°-E	直線状	505	070~192	0.32~1.04	28~52	U字状	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡→SK595-600· SK7634
595	A7d1-A7i8	N-115°-E	直線状	360	095~238	0.36~0.58	74~90	U字状	被斜	自然	繩文土器、土師器、 須恵器、鉄滓	SD680-597→本跡→ SU114-600
597	-Z7h0-A7i6	N-366°-E N-13°-E	直線状	367	058~148	0.38~0.82	34~56	U字状	被斜	自然	土師器、須恵器	SK7588-7628→本跡→ SK7595
598	-Z7i0-A8i8	N-152°-E	L字状	[35.0]	036~130	0.12~0.72	10~30	U字状	外傾	自然	土師器、須恵器、鉄滓	SK7618→本跡→ SK7619-7620-7641
599	A8e8-A8d7	N-54°-W	直線状	76	095~112	0.46~0.52	60	U字状	外傾	人為	土師器、須恵器	本跡→SD114
600	A7i8-A7i6	N-13°-W	直線状	122	060~095	0.30~0.60	25~40	U字状	外傾	人為		SD680-595→本跡→ SD114

(2) 井戸跡

第250号井戸跡 (25・26図 PL 4)

調査年度 平成28年度

位置 14区の東北部のA8b7区、標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 確認面は径3.64mの円形である。形状は、二段掘り状で、確認面から深さ50cmのところから、径1.50mの円筒形に掘り込まれている。深さ140cmまで掘り下げた時点で、湧水のため調査を断念した。

覆土 14層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。井戸の周囲には、北東を除き、10~30cm大の礫が敷かれ、その上に粘土が貼られている。北東部では、礫、粘土ともに確認できなかった。第12~14層は、作業面の構築上で、第1~11層は埋め戻された層である。

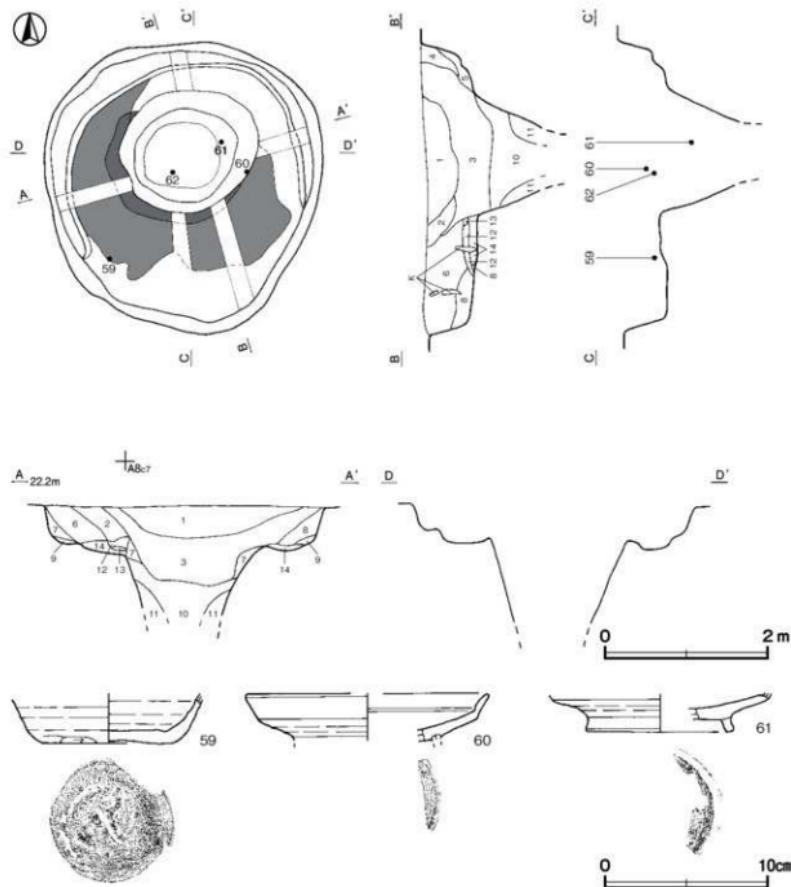
土層解説

1 黑褐色 成化物・ローム粒子少量	4 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・成化粒子微量
2 黑褐色 成化物少量、ローム粒子微量	5 灰褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量
3 黑褐色 ロームブロック・成化物少量、焼土粒子微量	6 黑褐色 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量

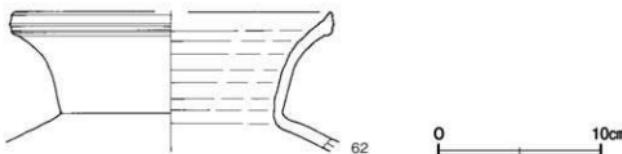
7 黒褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	11 黒色	ロームブロック・粘土ブロック中量、(しまり第10層より強い)
8 黒褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量	12 紫褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量
9 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量	13 黒褐色	褐色多量
10 黒色	ロームブロック・粘土ブロック中量、(しまり第11層より弱い)	14 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 士師器片 23 点 (坏 3, 壶 20), 須恵器片 37 点 (坏 14, 盘 2, 壶 21), 鉄滓 1 点 (337.33 g) が、出土している。61 は、井戸部の覆土から出土している。

所見 井戸枠は遺存していないが、第 12 層の粘土と第 13 層の礫の層は井戸枠を固定するためのものと考えられる。廃絶時に井戸枠を抜き取ったことが想定され、その際の残存部が第 12・13 層であると考えられる。時期は、出土土器から 9 世紀前葉に廃絶したと考えられる。



第 25 図 第 250 号井戸跡・出土遺物実測図



第26図 第250号井戸跡出土遺物実測図

第250号井戸跡出土遺物観察表（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
59	須恵器	环	-	(31)	[8.0]	長石・石英	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部下端へクレリ 底部回転ヘラ削り後不定方向のヘラ削り	第6層	20%
60	須恵器	盤	[150]	(29)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外・内面ロクロナデ 体部内面・底部内面塊 にいへく	第3層	20% PL5 黒斑
61	須恵器	盤	-	(24)	[9.0]	長石・石英・雲母 赤色粒子	灰白	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後 底面貼付後削りナデ	第10層	30% PL5 黒斑
62	須恵器	便	[195]	(8.6)	-	長石・磁輝 黒色粒子	灰白	普通	口縁部ロクロナデ 体部外・内面ロクロナデ	第3層	5% PL5 黒ノ内窓

(3) 土坑

第7618号土坑（第27図）

調査年度 平成28年度

位置 14区の北東部の-Z 85.5区。標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第598号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.44m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-10°-Eである。深さは8cmで、底面は平坦であり、壁は緩やかに外傾している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

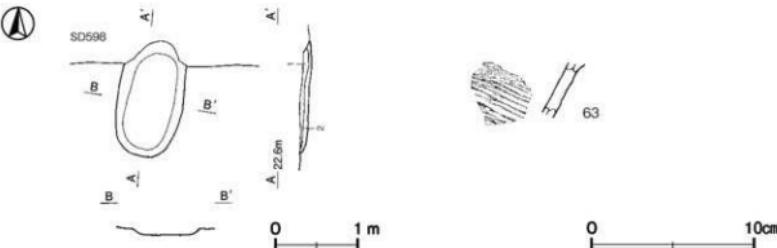
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 須恵器片2点（甕）が、出土している。

所見 時期は、出土土器と周辺の遺構との関係から、9世紀前葉と考えられる。性格は、第7620・7641号土坑と近接しており、いずれも埋め戻された土層であることから、廃棄土坑の可能性が考えられる。



第27図 第7618号土坑・出土遺物実測図

第7618号土坑出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
63	須恵器	甕	-	(35)	-	長石・石英・雲母	灰 黄	普通	体部斜位の平行押き 体部内面ロクロナデ	覆土中	5%

第7620号土坑（第28図 PL 4）

調査年度 平成28年度

位置 14区の北東部の-Z 8j6区。標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第598号溝、第7641号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.30m、短径1.04mの橢円形で、長径方向はN-47°Wである。深さは24cmで、底面は平坦であり、壁は外傾している。

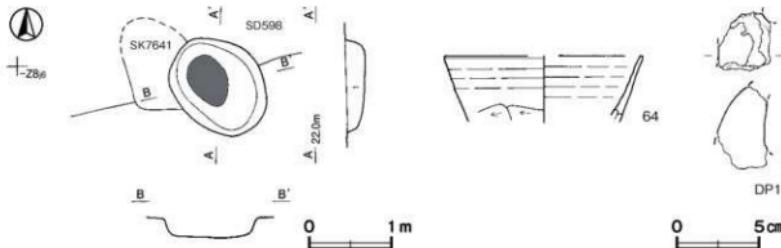
覆土 単一層である。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐 色 ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片2点（坏、甕）、須恵器片1点（坏）、土製品1点（羽口）、鉄滓8点（22.42g）が出土している。鉄滓は底面近くから出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。性格は、廃棄土坑である。



第28図 第7620号土坑・出土遺物実測図

第7620号土坑出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
64	須恵器	坏	[120]	(41)	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通	体部外・内面ロクロナデ後下端へ割り	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	羽口	(37)	(33)	(50)	(43.13)	長石・輝	明赤褐	外面は火を受け、褐灰色 乳孔(2.0)cm	覆土中	

第7623号土坑（第29図）

調査年度 平成28年度

位置 14区の北東部のA 8a 6区。標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長径 0.60 m, 短径 0.52 m の楕円形で、長径方向は N - 19° - E である。深さは 32 cm で、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 2 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

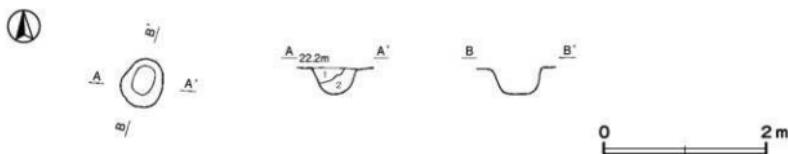
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 1 点（甕）が、出土しているが、細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。性格は、第 7620・7634 号土坑と近接しており、いずれも埋め戻された土層であることから、廃棄土坑の可能性が考えられる。



第 29 図 第 7623 号土坑実測図

第 7633 号土坑（第 30 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北東部の A 8a 6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長径 0.67 m、短径 0.56 m の楕円形で、長径方向は N - 11° - W である。深さは 62 cm で、底面は U 字状であり、壁はほぼ直立している。

覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

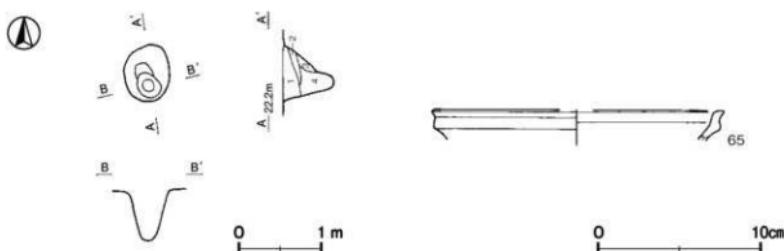
3 桐箱褐色 ロームブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子微量

4 黒褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 19 点（甕）が、出土している。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構との関係から、9世紀代と考えられる。性格は、第 7620・7634 号土坑と近接しており、いずれも埋め戻された土層であることから、廃棄土坑と考えられる。



第 30 図 第 7633 号土坑・出土遺物実測図

第 7633 号土坑出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
65	土師器	甕	[180]	(19)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	に赤・青紫	普通	口縁部外 内面つまみ上げ後横ナデ	覆土中	5%

第 7634 号土坑（第 31 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北東部の A 8 c 7 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 580 号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.06 m、短径 1.00 m の円形である。深さは 56 cm で、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 5 層に分層できる。炭化物、焼土粒子や粘土ブロックが含まれることから、埋め戻されている。

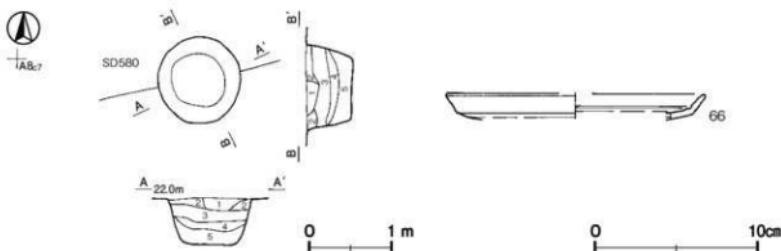
土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子中量、炭化物少量
 2 褐褐色 炭化物少量、ローム粒子微量
 3 黑褐色 ローム粒子、炭化粒子微量

- 4 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
 5 黑褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 14 点（甕）、須恵器片 4 点（壺 2、盤 1、甕 1）が、出土している。

所見 時期は、出土土器や周辺の遺構との関係から、9 世紀前葉と考えられる。性格は廃棄土坑である。



第 31 図 第 7634 号土坑・出土遺物実測図

第 7634 号土坑出土遺物観察表（第 31 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
66	須恵器	甕	[160]	(16)	—	長石・石英・雜	灰	普通	体部内面・底部内面に沈線状のナデ	覆土中	5%

第 7641 号土坑（第 32 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北東部の -Z 8 j 6 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第 598 号溝を掘り込み、第 7620 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.17 m, 短径 0.78 m の楕円形で、長径方向は N - 13° - W である。深さは 19 cm で、底面は平坦であり、壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックや炭化物が含まれていることから、埋め戻されている。

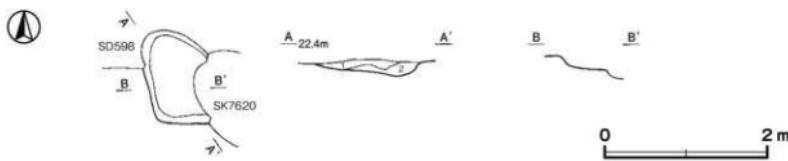
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

2 灰褐色 褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量

遺物出土状況 鉄滓 (27.02 g) が、出土している。

所見 時期は、周辺の遺構との関係から、9世紀前葉と考えられる。性格は、重複している第 7620 号土坑と同様の廃棄土坑と考えられる。



第 32 図 第 7641 号土坑実測図

表 5 平安時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規格		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
7618	-Z 8.15	N - 10° - E	楕円形	(14.4) × 0.80	8	緩斜	平坦	人為	壺	本跡 → SD598
7620	-Z 8.16	N - 47° - W	楕円形	13.0 × 1.04	24	外傾	平坦	人為	土師器、壺	SK7641, SD598 → 本跡
7623	A 8.6	N - 19° - E	楕円形	0.60 × 0.52	32	ほぼ直立	平坦	人為	土師器	
7633	A 8.6	N - 11° - W	楕円形	0.67 × 0.56	62	ほぼ直立	U字状	人為	土師器	
7634	A 8.7	-	円形	1.06 × 1.00	56	ほぼ直立	平坦	人為	土師器、壺	SD580 → 本跡
7641	-Z 8.16	N - 13° - W	〔楕円形〕(1.17) × (0.78)	19	外傾	平坦	人為	泥滓		SD598 → 本跡 → SK7620

2 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、墓坑 5 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

墓坑

第 7564 号土坑（第 33 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北部の A 7 b 7 区。標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸 1.40 m, 短軸 0.90 m の長方形で、長軸方向は N - 10° - W である。深さは 60 cm で、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

4 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック少量

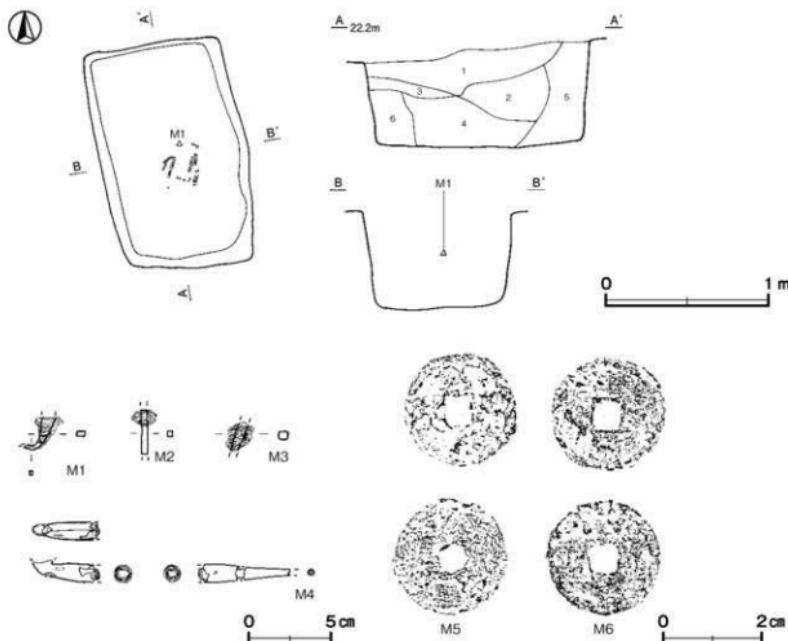
5 黑褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック微量

6 黑褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 人骨片、土師器片2点(甕)、須恵器片1点(坏)、石英片1点、金属製品13点(煙管1、釘12)、銭貨6枚が、出土している。銭貨6枚のうち、4枚は付着した状態で出土している。M1は、第4層から出土している。付着した木質の木本から、縦・横の2枚の板を打ち付けている。

所見 人骨や副葬品と考えられる煙管や銭貨が出土していることから、墓坑である。釘は木棺を打ったものと考えられる。床面から高い位置で釘が出土していること、人骨の出土状況や、土坑の形状などから、立方体箱式木棺による屈葬と考えられる。時期は、出土遺物から18世紀後葉と考えられる。



第33図 第7564号土坑・出土遺物実測図

第7564号土坑出土遺物観察表(第33図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	等級	出土位置	備考	
M1	釘	(20)	19	0.3	(1.64)	鉄	頭部欠損 断面長方形 木質付着	第4層		
M2	釘	(28)	0.4	0.3	(1.14)	鉄	頭部欠損 断面長方形 木質付着	覆土中		
M3	釘	(1.7)	(0.6)	(0.5)	(1.88)	鉄	頭部欠損 断面長方形 木質付着	覆土中		
M4	煙管	(4.1) (5.8)	14	11	(6.93)	銅	吸い口・瓶首に羅字残存 口元長方形	覆土中		
番号	種別	銘名	径	孔径	重量	材質	初鑄年	等級	出土位置	備考
M5	銭貨	-	241	0.53	296	銅	-	方孔円錢	覆土中	六道錢。
M6	銭貨	-	240	0.55	251	銅	-	方孔円錢	覆土中	六道錢。

第 7573 号土坑（第 34 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北部の A 7 b 7 区。標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸 0.97 m、短軸 0.93 m の方形で、長軸方向は N - 10° - W である。深さは 84 cm で、底面は東西の壁沿いに、高さ 20 cm ほどの段がそれぞれあり、壁は直立している。

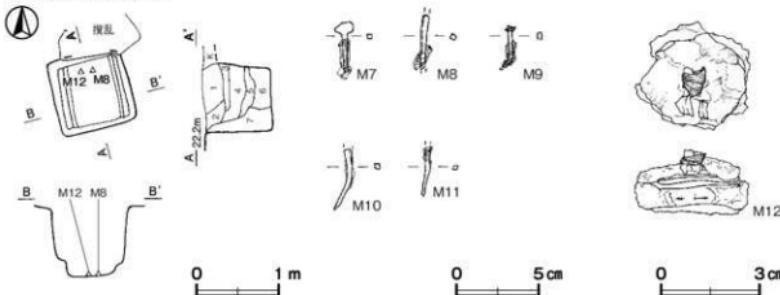
覆土 7 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量	5 極暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量	6 暗褐色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量	7 褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 金属製品 25 点（釘）、銭貨 6 枚が、出土している。銭貨 6 枚は鏽で融着した状態で底面から出土している。

所見 人骨は出土していないが、形状や、周囲にある第 7624 号土坑と同様の釘や銭貨が出土していることから墓坑と推測した。形状から、立方体箱式木棺による屈葬と考えられる。時期は、出土遺物や周辺遺構との関係から 18 世紀後葉と考えられる。



第 34 図 第 7573 号土坑・出土遺物実測図

第 7573 号土坑出土遺物観察表（第 34 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	釘	31	11	(0.3)	(1.70)	鉄	木質台着 断面長方形	覆土中	
M 8	釘	(34)	(0.5)	(0.4)	(1.24)	鉄	頭部欠損 木質台着 断面長方形	底面	
M 9	釘	(26)	(0.7)	(0.4)	(0.70)	鉄	木質台着 断面長方形	覆土中	
M 10	釘	(37)	(11)	(0.3)	(0.75)	鉄	頭部欠損 木質台着 断面長方形	覆土中	
M 11	釘	(32)	(0.4)	(0.3)	(0.61)	鉄	頭部欠損 木質台着 断面長方形	覆土中	

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M 12	銭貨	-	-	-	20.49	鉄・銅	-	無系残存 6 枚	底面	PL. 6 六面残

第 7586 号土坑（第 35 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北部の A 7 a 7 区。標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸 1.27 m、短軸 0.88 m の長方形で、長軸方向は N - 9° - E である。深さは 103 cm で、底面は平坦であり、壁は直立している。

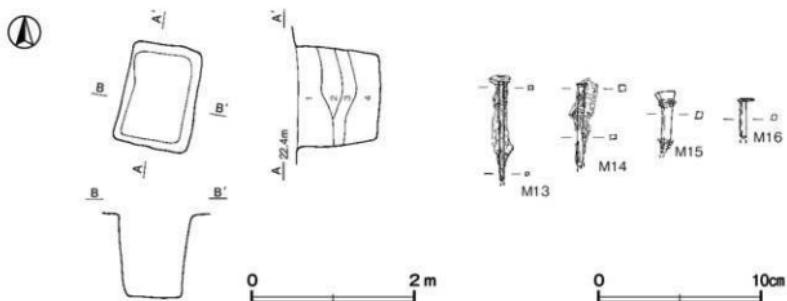
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	3	褐色	ロームブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック中量	4	暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 3 点（甕）、金属製品 14 点（釘）が、出土している。

所見 人骨は出土していないが、隣接している第 7624 号土坑と同様の形状であり、釘が出土していることから、墓坑と推測した。形状から、立方体箱式木棺による屈葬と考えられる。時期は、出土遺物や周辺遺構との関係から 18 世紀後葉と考えられる。



第 35 図 第 7586 号土坑・出土遺物実測図

第 7586 号土坑出土遺物観察表（第 35 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 13	釘	(66)	(13)	(0.4)	(5.02)	鉄	木質付着 断面長方形	覆土中	
M 14	釘	(52)	(07)	(0.4)	(4.79)	鉄	木質付着 断面長方形	覆土中	
M 15	釘	(39)	12	0.4	(3.22)	鉄	木質付着 断面長方形	覆土中	
M 16	釘	(25)	0.4	0.4	(0.93)	鉄	木質付着 断面長方形	覆土中	

第 7624 号土坑（第 36 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 14 区の北部の A 7 a 7 区、標高 22 m ほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸 1.07 m、短軸 0.86 m の長方形で、長軸方向は N - 6° - W である。深さは 114 cm で、底面は平坦であり、壁は直立している。

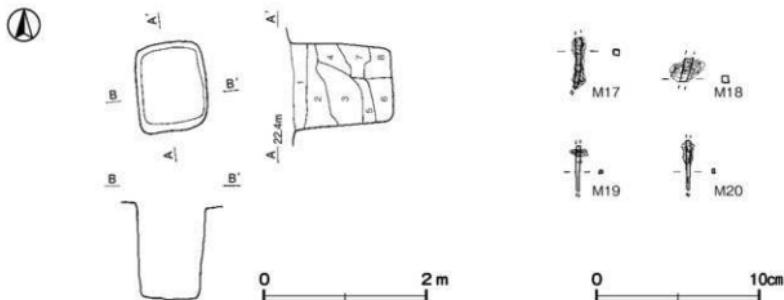
覆土 8 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
2	灰褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	6	暗褐色	ローム粒子少量
3	黒褐色	ロームブロック・ローム粒子少量	7	黒褐色	ローム粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片1点(甕), 陶器片1点, 金属製品8点(釘)が、出土している。

所見 人骨は出土していないが、隣接している第7586号土坑と同様の形状である。また、釘が出土していることから、墓坑と推測できる。形状から立方体箱式木棺による屈葬と考えられる。時期は、出土遺物や周辺遺構との関係から18世紀後葉と考えられる。



第36図 第7624号土坑・出土遺物実測図

第7624号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 17	釘	(13)	(0.4)	(0.8)	(1.88)	鉄	頭部欠損 木質付着 断面長方形	覆土中	
M 18	釘	(19)	(0.5)	(0.5)	(2.51)	鉄	頭部欠損 木質付着 断面長方形	覆土中	
M 19	釘	(28)	(0.3)	(0.2)	(0.55)	鉄	頭部欠損 木質付着 断面長方形	覆土中	
M 20	釘	(32)	(0.3)	(0.3)	(0.73)	鉄	頭部欠損 木質付着 断面長方形	覆土中	

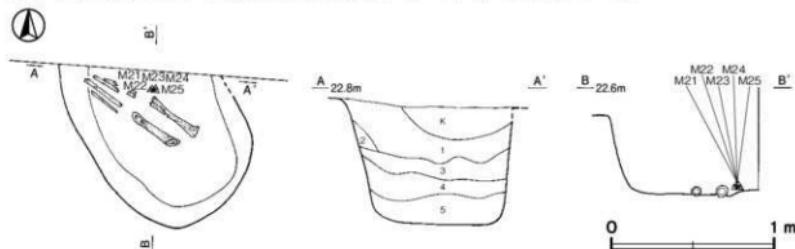
第7625号土坑（第37・38図 PL 4）

調査年度 平成28年度

位置 14区の北部の-Z815区、標高22mほどの台地緩斜面に位置している。

規模と形状 北部は調査区域外であり、長径は1.03m、短径は0.93mが確認できた。形状は楕円形で、長径方向はN-31°-Wである。深さは70cmで、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



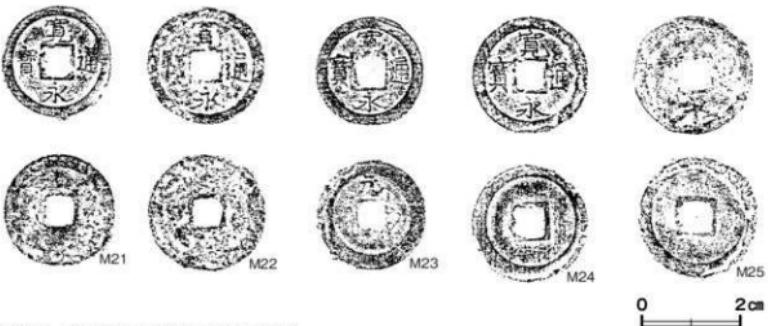
第37図 第7625号土坑実測図

土層解説

1	灰	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量	4	黑	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐	灰	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	褐	灰	色	ロームブロック少量
3	黑	褐	色	ロームブロック少量、炭化物微量					

遺物出土状況 覆土下層から人骨片、銭貨6枚が、出土している。うち1枚は鉄錢で、状態が悪く図示できなかった。人骨片は、大腿骨・上腕骨・橈骨が並んで床面から出土している。

所見 人骨が出土していることや、副葬品と考えられる銭貨が出土していることから墓坑である。出土状況から、直葬による埋葬と考えられる。時期は、出土遺物から18世紀後葉と考えられる。



第38図 第7625号土坑出土遺物実測図

第7625号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	銭名	径	孔径	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M 21	銭貨	寛永通寶	2.32	0.61	2.06	銅	1668	新寛永 氷の「く」はねる	第5層	PL 6 六通錢
M 22	銭貨	寛永通寶	2.44	0.59	1.76	銅	1668	新寛永	第5層	PL 6 六通錢
M 23	銭貨	寛永通寶	2.30	0.58	2.19	銅	1741	細字背元	第5層	PL 6 六通錢
M 24	銭貨	寛永通寶	2.45	0.58	2.67	銅	1668	新寛永	第5層	PL 6 六通錢
M 25	銭貨	寛永通寶	2.45	0.63	2.42	銅	1668	新寛永	第5層	PL 6 六通錢

表6 江戸時代墓坑一覧表

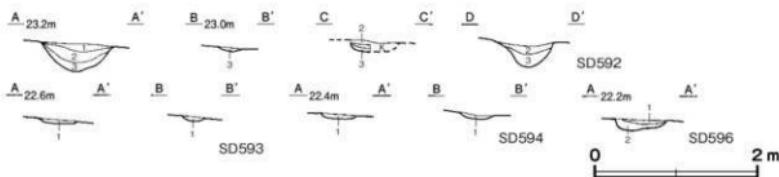
番号	位置	長軸方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
7564	A 7 b7	N - 10° - W	長方形	1.40 × 0.90	60	ほぼ直立	平坦	人為	人骨片、金属製品、銭貨	
7573	A 7 b7	N - 10° - W	方形	0.97 × 0.93	84	直立	有段	人為	金属製品、銭貨	
7586	A 7 a7	N - 9° - E	長方形	1.27 × 0.88	103	直立	平坦	人為	金属製品	
7624	A 7 a7	N - 6° - W	長方形	1.07 × 0.86	114	直立	平坦	人為	金属製品	
7625	-Z 8 15	N - 31° - W	楕円形	(1.03) × 0.93	70	ほぼ直立	平坦	人為	人骨片、銭貨	

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明確でない溝跡4条、土坑74基、ピット群4か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 溝跡

時期や性格が明確でない溝跡については、実測図（第39図）、土層解説及び一覧表にて掲載する。



第39図 その他の溝跡実測図

第592号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第593号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量

第594号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

第596号溝跡土層解説

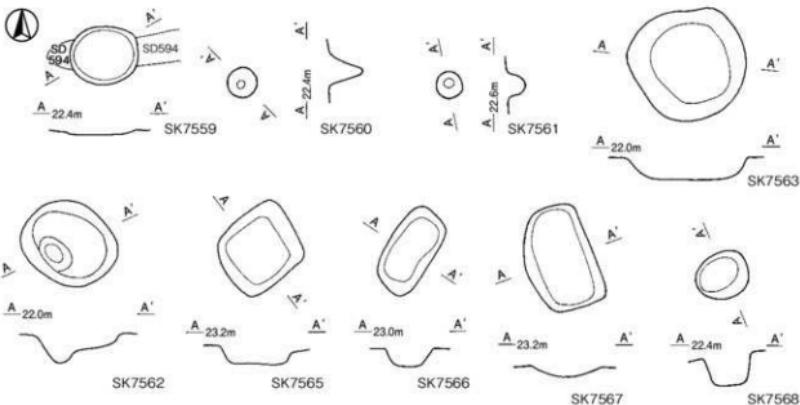
- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

表7 その他の溝跡一覧表

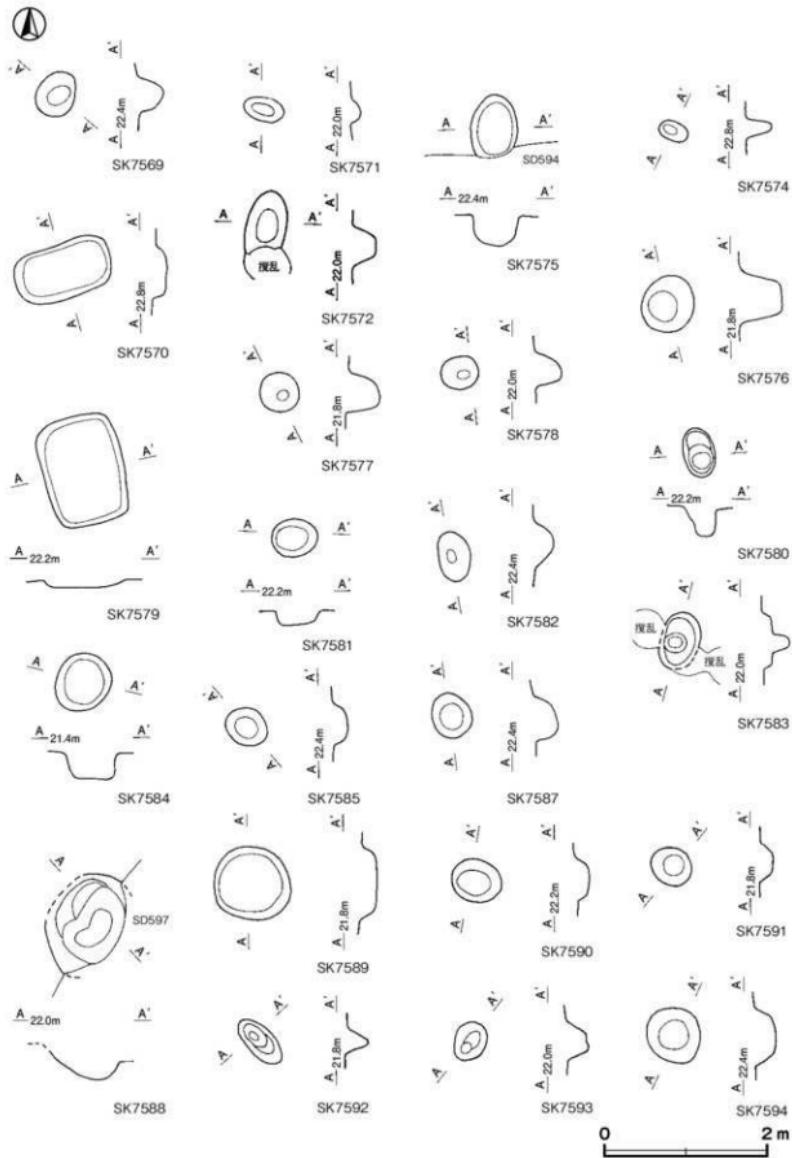
番号	位 置	方 向	平面形	規 模				断 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
592-Z610~Z715	N=90°-E	直線状	19.1	0.20~0.86	0.40~0.22	2~32	U字状	外傾	自然	土器部、須恵器		
593-A752~A7a4	N=82°-E	直線状	12.9	0.14~0.50	0.40~0.45	2~3	浅いU字状	直立	無	不明		
594-A7b3~Z715	N=83°-E	直線状	10.1	0.36~0.50	0.15~0.38	2~3	浅いU字状	外傾	不明		SK595→本図→ SK7539	
596-A7d5~A7d6	N=83°-E	直線状	5.7	0.55~0.64	0.40~0.41	14	浅いU字状	直立?	自然		SK7598 新田不司	

(2) 土坑

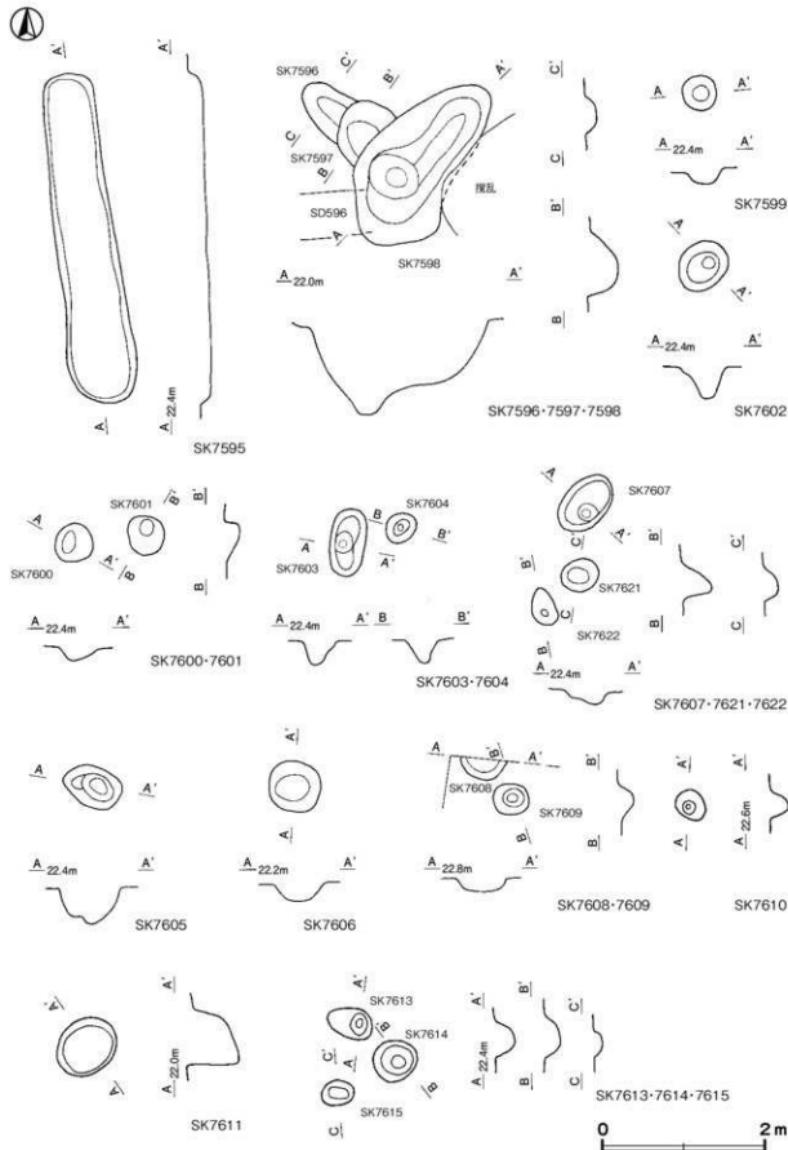
時期や性格が明確でない土坑については、実測図（第40～43図）及び一覧表にて掲載する。



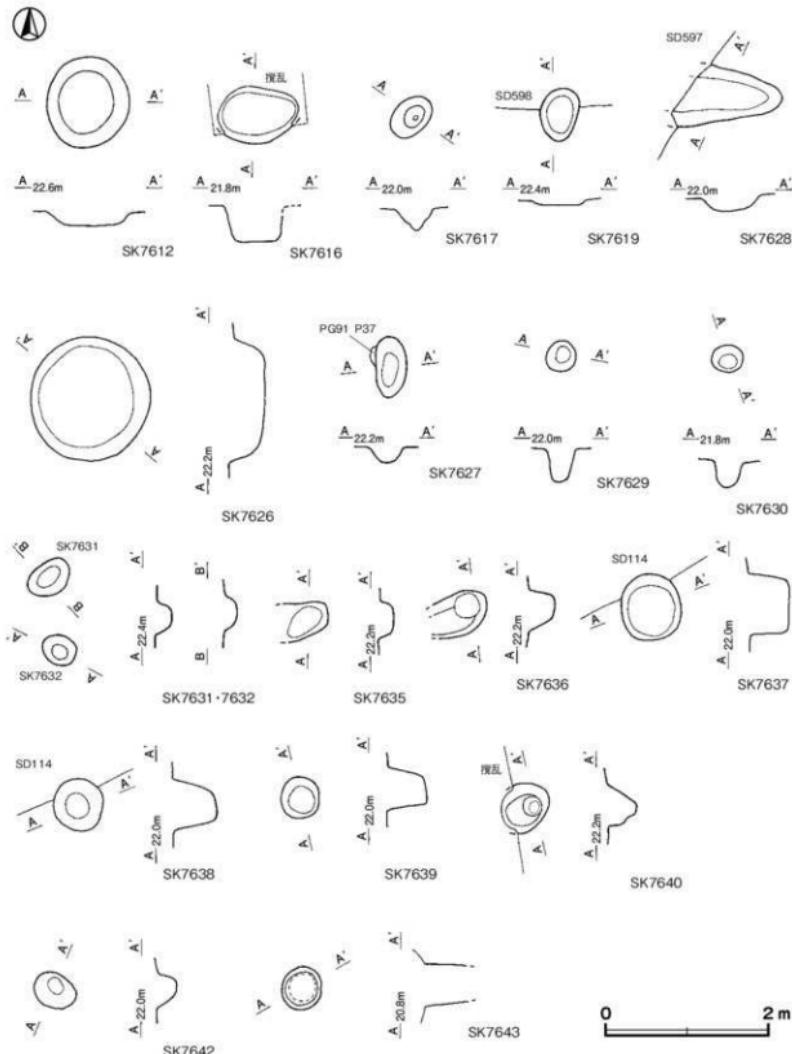
第40図 その他の土坑実測図(1)



第41図 その他の土坑実測図(2)



第42図 その他の土坑実測図(3)



第43図 その他の土坑実測図(4)

表8 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平底形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
7559	A7b3	N - 82° - E	楕円形	0.84 × 0.70	5	板斜	平坦	人為		SD694 → 本跡
7560	A7b3	-	円形	0.36 × 0.36	40	外傾	皿状	人為		
7561	A7a2	-	円形	0.35 × 0.34	22	ほぼ直立 外傾	皿状	人為		
7562	A7d6	N - 50° - W	楕円形	1.15 × 1.00	16 ピット18	板斜	平坦	自然		
7563	A7c7	-	円形	1.39 × 1.33	27	板斜	平坦	人為		
7565	-Z7h2	N - 51° - E	長方形	1.00 × 0.90	18	外傾	平坦	人為		
7566	-Z7h1	N - 34° - E	隅丸長方形	1.08 × 0.56	20	外傾	凹凸	人為	陶器	
7567	-Z7i1	N - 19° - W	隅丸長方形	1.28 × 0.84	13	板斜	皿状	人為		
7568	A6a0	N - 65° - E	楕円形	0.65 × 0.56	38	ほぼ直立	平坦	人為	土器部、陶器	
7569	A7b1	N - 37° - E	楕円形	0.60 × 0.50	30	外傾	皿状	人為		
7570	-Z7j3	N - 72° - E	隅丸長方形	1.22 × 0.68	10	ほぼ直立	平坦	人為		
7571	A7e4	N - 70° - W	楕円形	0.48 × 0.38	12	板斜	皿状	人為		
7572	A7d4	N - 9° - E	楕円形	(0.65) × 0.49	19	板斜	傾斜	人為		
7574	-Z7j2	N - 58° - W	楕円形	0.38 × 0.24	32	ほぼ直立	皿状	人為		
7575	A7b4	N - 4° - E	楕円形	(0.78) × 0.68	42	ほぼ直立	平坦	人為		本跡 → SD594
7576	A8f4	-	円形	0.66 × 0.66	53	ほぼ直立	平坦	人為		
7577	A8f6	-	円形	0.48 × 0.48	40	外傾	U字状	人為		
7578	A8f7	N - 66° - E	楕円形	0.46 × 0.40	31	外傾	U字状	自然		
7579	A8i4	N - 13° - W	長方形	1.35 × 1.01	11	板斜	平坦	人為	土器部	
7580	A7b3	N - 2° - W	楕円形	0.58 × 0.38	38	ほぼ直立	皿状	人為		
7581	A7c2	N - 84° - E	楕円形	0.56 × 0.46	16	板斜	平坦	自然		
7582	A7b7	N - 15° - W	楕円形	0.62 × 0.40	23	板斜	皿状	自然		
7583	A7d3	N - 13° - E	楕円形	0.70 × 0.46	10 ピット24	外傾	平坦	人為		
7584	A7g8	-	円形	0.70 × 0.68	32	直立	平坦	人為		
7585	A7a0	N - 42° - W	楕円形	0.52 × 0.46	18	外傾	皿状	人為		
7587	A6b0	N - 20° - E	楕円形	0.55 × 0.48	32	ほぼ直立 外傾	皿状	人為	土器部	
7588	A7c8	N - 35° - E	[円形+椭円形]	1.28 × (0.80)	62	板斜	皿状	自然		本跡 → SD597
7589	A7f1	-	円形	0.93 × 0.90	20	外傾	平坦	自然	調片	
7590	A7b0	N - 70° - W	楕円形	0.62 × 0.52	17	外傾	平坦	自然		
7591	A8h2	N - 51° - W	楕円形	0.52 × 0.46	16	外傾	平坦	人為		
7592	A8h1	N - 47° - W	楕円形	0.70 × 0.34	30	外傾	皿状	自然		
7593	B7a0	N - 36° - E	楕円形	0.50 × 0.40	30	外傾	有段	人為		
7594	A8a1	-	円形	0.68 × 0.68	26	外傾	皿状	人為		
7595	A8b1	N - 7° - W	隅丸長方形	1.06 × 0.74	18	板斜	平坦	自然	土器部、須恵器	
7596	A7d6	N - 43° - E	楕円形	(0.58) × 0.38	14	外傾 板斜	皿状	自然		本跡 → SK7597
7597	A7d6	N - 34° - E	[円形+椭円形]	0.78 × (0.46)	40	ほぼ直立 外傾	皿状	自然		SK7596 → 本跡 → SK7598
7598	A7d6	N - 41° - E	不整椭円形	2.34 × 0.96	81 ピット35	外傾 板斜	平坦	人為		SD596 新跡不明
7599	A8a3	-	円形	0.44 × 0.44	21	外傾	皿状	自然	土器部	
7600	A8a4	-	円形	0.48 × 0.48	18	外傾	皿状	自然		
7601	A8a4	N - 3° - W	楕円形	0.51 × 0.42	18	直立 外傾	皿状	自然	土器部	
7602	A8a4	N - 46° - E	楕円形	0.68 × 0.55	39	ほぼ直立 外傾	皿状	人為		
7603	A8a4	N - 20° - E	楕円形	0.84 × 0.44	32	ほぼ直立 外傾	皿状	自然		
7604	A8a4	N - 47° - E	楕円形	0.42 × 0.36	24	外傾	皿状	人為		
7605	A8a2	N - 71° - W	楕円形	0.74 × 0.50	42	外傾	有段	人為		
7606	A8b2	-	円形	0.62 × 0.60	20	外傾	皿状	人為		

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 道 物	備 考
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
7007	-Z 8 j5	N - 40° - E	椭円形	0.83 × 0.54	18	傾斜	平坦	自然	土師器、灰陶器	
7008	-Z 8 h4	-	[円形]	0.58 × (0.26)	15	外傾	平坦	自然		
7009	-Z 8 i4	-	円形	0.43 × 0.40	18	外傾	圓状	人為		
7010	-Z 8 i6	N - 52° - W	椭円形	0.41 × 0.34	24	外傾	U字状	自然		
7011	A 7 d0	N - 52° - E	椭円形	0.80 × 0.68	64	(ほぼ)直立	傾斜	自然		
7012	-Z 8 i6	N - 1° - E	椭円形	1.12 × 1.10	19	傾斜	平坦	人為		
7013	-Z 8 j6	N - 68° - W	椭円形	0.56 × 0.40	26	外傾	圓状	人為	須恵器	
7014	-Z 8 j6	-	円形	0.55 × 0.52	20	外傾	圓状	自然	須恵器、土師器、鉄滓	
7015	-Z 8 j6	N - 86° - E	廣丸長方形	0.42 × 0.32	12	傾斜	圓状	自然	土師器	
7016	A 8 g2	N - 81° - E	椭円形	(1.02) × (0.72)	42	(ほぼ)直立	平坦	自然		
7017	A 8 h3	N - 42° - E	椭円形	0.60 × 0.42	28	外傾	U字状	人為	土師器、鉄滓	
7019	-Z 8 j5	N - 40° - E	椭円形	0.61 × 0.46	7	傾斜	平坦	不明		本跡 → SD598
7021	A 8 a5	N - 66° - E	椭円形	0.47 × 0.40	18	傾斜	圓状	自然		
7022	A 8 a5	N - 11° - W	椭円形	0.48 × 0.31	38	外傾	U字状	人為		
7026	A 8 c4	-	円形	1.52 × 1.49	41	外傾 傾斜	平坦	自然	土師器、須恵器	
7027	A 8 a3	N - 0°	椭円形	0.75 × 0.40	19	傾斜	平坦	人為		PG9HP37 → 本跡
7028	A 7 c9	N - 84° - W	椭円形	(1.16) × 0.72	22	傾斜	平坦	不明		本跡 → SD597
7029	A 8 c3	N - 30° - E	椭円形	0.40 × 0.36	40	(ほぼ)直立	U字状	人為		
7030	A 7 e9	N - 63° - E	椭円形	0.41 × 0.34	33	(ほぼ)直立	平坦	自然		
7031	-Z 8 j6	N - 51° - E	椭円形	0.59 × 0.40	19	外傾 傾斜	平坦	自然		
7032	-Z 8 j6	N - 62° - W	椭円形	0.45 × 0.37	17	傾斜	圓状	人為		
7035	A 8 b3	N - 67° - E	椭円形	(0.51) × 0.47	18	(ほぼ)直立 外傾	圓状	人為	鉄滓	
7036	A 8 b3	N - 65° - E	椭円形	(0.68) × 0.50	30	(ほぼ)直立 外傾	平坦	人為		PG9HP42 43 → 本跡
7037	A 8 d6	N - 8° - W	椭円形	0.84 × 0.73	48	(ほぼ)直立	平坦	自然		SD114 → 本跡
7038	A 8 d6	-	円形	0.67 × 0.63	53	(ほぼ)直立 外傾	平坦	自然		SD114 → 本跡
7039	A 8 d6	-	円形	0.51 × 0.49	46	(ほぼ)直立	平坦	自然		
7040	A 8 b3	N - 61° - E	椭円形	(0.65) × 0.56	35	外傾 傾斜	有段	人為		PG9HP69削出不明
7042	A 7 c9	N - 45° - W	椭円形	0.54 × 0.42	26	(ほぼ)直立 外傾	圓状	人為		
7043	A 7 j6	N - 4° - E	椭円形	0.56 × 0.48	(50)	直立	-	自然		漏水の為 底面未完観

(3) ピット群

今回の調査で、時期や性格が明確でないピット群4か所を確認した。全体の配置図は全体図(第4図)に掲載し、規模を計測表にて掲載する。

表9 第89号ピット群ピット計測表

ピット番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	A 6 a0	円形	20	20	38	7	A 6 a0	椭円形	22	20	30	13	A 7 a1	椭円形	24	19	28
2	A 7 a1	椭円形	25	20	13	8	A 6 a0	椭円形	25	22	31	14	A 7 a1	椭円形	24	20	23
3	A 6 a0	円形	23	21	30	9	A 6 a0	円形	24	23	31	15	A 7 a1	椭円形	26	22	30
4	A 6 a0	円形	22	22	28	10	A 7 a1	椭円形	28	21	31	16	A 7 b1	円形	23	22	25
5	A 6 a0	椭円形	21	17	33	11	A 6 a0	椭円形	25	21	34						
6	A 6 a0	円形	25	23	34	12	A 7 a1	円形	21	20	28						

表10 第90号ピット群ピット計測表

ピット番号	位置	形状	規格 (cm)			ピット番号	位置	形状	規格 (cm)			ピット番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	A 8c4	楕円形	41	34	23	21	A 8b5	円形	27	25	16	41	A 8b5	楕円形	24	19	21
2	A 8e4	[円形側面]	29	(14)	22	22	A 8b6	円形	27	25	36	42	A 8b5	楕円形	25	18	34
3	A 8e4	[楕円形]	(30)	30	22	23	A 8b6	凸凹面凹	25	(12)	36	43	A 8b5	円形	29	28	37
4	A 8b4	楕円形	32	22	31	24	A 8b6	楕円形	31	27	26	44	A 8b5	楕円形	24	20	38
5	A 8b4	楕円形	27	20	35	25	A 8b6	楕円形	31	25	22	45	A 8b5	円形	26	25	35
6	A 8b4	円形	24	22	34	26	A 8b6	楕円形	33	27	40	46	A 8b5	楕円形	22	19	28
7	A 8b5	円形	(25)	25	31	27	A 8b6	楕円形	22	20	26	47	A 8b4	円形	22	14	11
8	A 8b5	楕円形	44	29	31	28	A 8b6	円形	22	21	20	48	A 8b4	楕円形	25	20	11
9	A 8b5	楕円形	26	23	25	29	A 8b6	楕円形	23	19	11	49	A 8b4	楕円形	18	14	14
10	A 8b4	円形	36	33	24	30	A 8b6	楕円形	22	20	18	50	A 8b4	円形	27	27	22
11	A 8b5	楕円形	34	28	36	31	A 8b5	不要円形	26	24	18	51	A 8b5	楕円形	31	24	24
12	A 8b5	円形	23	22	35	32	A 8b6	楕円形	30	22	22	52	A 8b5	楕円形	30	17	12
13	A 8b5	楕円形	29	22	19	33	A 8b5	楕円形	35	30	22	53	A 8b4	楕円形	27	23	15
14	A 8b5	楕円形	(38)	21	34	34	A 8b5	円形	19	19	22	54	A 8b4	楕円形	22	19	11
15	A 8b5	楕円形	34	20	35	35	A 8b5	円形	34	32	13	55	A 8b4	楕円形	21	19	12
16	A 8b5	[円形側面]	(33)	(13)	32	36	A 8b5	円形	38	38	21	56	A 8b5	楕円形	28	24	22
17	A 8b5	楕円形	54	(33)	34	37	A 8b5	円形	27	25	13	57	A 8b5	楕円形	33	27	14
18	A 8b5	円形	32	31	36	38	A 8b5	楕円形	33	26	32	58	A 8b5	楕円形	34	30	15
19	A 8b5	楕円形	30	27	26	39	A 8b5	円形	24	23	10	59	A 8b5	楕円形	26	23	40
20	A 8b5	円形	21	20	25	40	A 8b5	楕円形	26	22	15	60	A 8b4	楕円形	27	24	22

表11 第91号ピット群ピット計測表

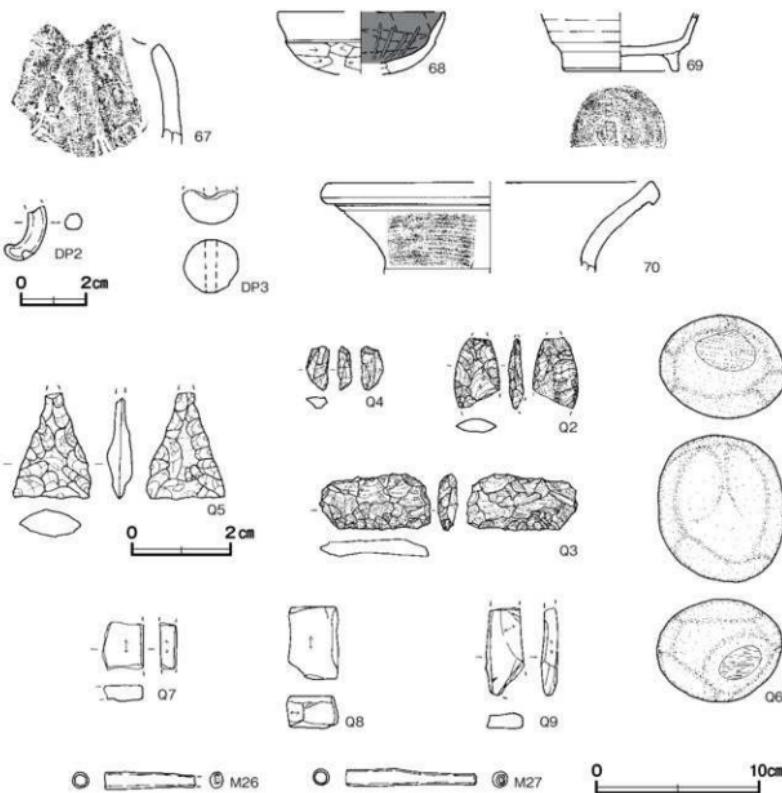
ピット番号	位置	形状	規格 (cm)			ピット番号	位置	形状	規格 (cm)			ピット番号	位置	形状	規格 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	A 8a2	楕円形	24	21	12	24	A 8a3	楕円形	24	21	15	47	A 8a3	円形	27	26	14
2	A 8a2	[楕円形]	18	(7)	22	25	A 8a3	円形	19	18	11	48	A 8a3	円形	37	34	15
3	A 8a3	[楕円形]	25	15	19	26	A 8a3	楕円形	25	22	21	49	A 8a3	楕円形	22	18	13
4	A 8a2	楕円形	24	21	14	27	A 8a3	楕円形	35	30	33	50	A 8a3	円形	27	26	32
5	A 8a2	円形	24	22	24	28	A 8a3	円形	23	22	21	51	A 8b3	円形	28	26	22
6	A 8a2	楕円形	31	23	18	29	A 8a3	円形	26	25	19	52	A 8b3	円形	26	25	12
7	A 8a3	[楕丸方形容]	26	(21)	24	30	A 8a3	円形	22	21	21	53	A 8b3	楕円形	25	21	22
8	A 8a2	楕円形	31	23	25	31	A 8a3	楕円形	23	18	27	54	A 8b3	楕円形	32	29	19
9	A 8a2	円形	24	21	28	32	A 8a3	楕円形	26	23	26	55	A 8b3	楕円形	25	19	29
10	A 8a3	楕円形	27	24	24	33	A 8a3	楕円形	37	30	22	56	A 8b3	楕円形	26	21	22
11	A 8a3	楕円形	26	21	18	34	A 8a3	楕円形	40	28	30	57	A 8b3	楕円形	37	32	14
12	A 8a3	楕円形	29	19	16	35	A 8a3	円形	19	18	23	58	A 8b3	楕円形	27	24	11
13	A 8a2	楕円形	30	26	20	36	A 8a3	円形	20	19	26	59	A 8b3	楕円形	33	27	22
14	A 8a2	円形	34	31	25	37	A 8a3	楕円形	29	21	16	60	A 8b2	楕円形	28	22	38
15	A 8a3	楕円形	25	22	14	38	A 8a3	楕円形	24	21	20	61	A 8b3	楕円形	27	22	37
16	A 8a3	楕円形	24	20	23	39	A 8a3	円形	20	20	17	62	A 8b3	楕円形	22	18	26
17	A 8a3	楕円形	24	19	21	40	A 8a3	円形	24	23	17	63	A 8b2	円形	20	20	24
18	A 8a3	楕円形	26	22	32	41	A 8a3	楕円形	22	14	14	64	A 8a3	円形	24	23	15
19	A 8a3	楕円形	25	19	25	42	A 8s3	[楕円形]	23	(16)	14	65	A 8a3	楕円形	25	22	9
20	A 8a3	円形	43	42	19	43	A 8s3	楕円形	29	23	32	66	A 8b2	楕円形	29	25	16
21	A 8a3	楕円形	23	18	17	44	A 8s3	楕円形	20	16	16	67	A 8b2	楕円形	36	24	16
22	A 8a3	楕円形	22	20	14	45	A 8b3	楕円形	32	24	28	68	A 8b3	楕円形	23	19	24
23	A 8a3	楕円形	36	19	26	46	A 8a3	円形	24	24	14	69	A 8b3	楕円形	31	25	40

表 12 第 92 号ピット群ピット計測表

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	A 8e5	椭円形	24	20	21	8	A 8e5	椭円形	23	18	16	15	A 8e5	円形	19	18	9
2	A 8e5	椭円形	19	17	13	9	A 8e5	椭円形	30	12	20	16	A 8e5	[円形]	(19)	19	14
3	A 8e5	椭円形	20	15	21	10	A 8e5	椭円形	21	19	12	17	A 8e5	円形	22	21	16
4	A 8e5	円形	21	20	17	11	A 8e5	椭円形	22	17	16	18	A 8e5	椭円形	26	20	13
5	A 8e5	円形	22	22	23	12	A 8e5	椭円形	31	27	21	19	A 8e6	円形	29	28	37
6	A 8e5	椭円形	24	16	20	13	A 8e5	椭円形	24	16	10						
7	A 8e5	椭円形	19	16	14	14	A 8e5	椭円形	25	21	16						

(4) 遺構外出土遺物(第 44 図)

遺構に伴わない主な遺物について、実測図及び観察表で掲載する。



第 44 図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄褐	普通	外・内面ヘラナデ 幸跡繩文R.L S字状隆線	SD595 覆土中	5%
68	土器器	杯	[102]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	にせい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部内面放射状ヘラ磨き	表土	20%
69	須恵器	高足杯	-	(3.6)	[7.2]	長石・石英	灰	普通	外縁部・内面ロクロナデ 底部削輪ヘラ切り後 高台削付	表土	40%
70	須恵器	甕	[19.8]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部及び体部外・内面ロクロナデ	表土	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 2	勾玉	(23)	(1.8)	0.7	(2.10)	長石	黒褐	ヘラナデ	表土	PL 6

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 3	土玉	3.4	3.3	0.8	(20.26)	長石・石英・赤色粒子	にせい白褐	ナデ	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	尖頭器	(4.4)	2.8	0.8	(10.45)	黒曜石	先端・基部欠損	表土	PL 6
Q 3	種器	3.5	6.4	1.2	27.97	黒曜石	端部急斜度調整	SD580 覆土中	PL 6
Q 4	剥片	2.7	1.3	0.7	3.44	チャート	耐長剥片	SK559 覆土中	
Q 5	磨	(2.2)	1.6	0.5	(1.31)	チャート	凹溝無基盤	表土	
Q 6	磨石	9.0	7.8	6.8	625	砂岩	2面に円形の磨痕	SD599 覆土中	PL 6
Q 7	砥石	(2.9)	(2.5)	1.0	(11.22)	砂岩	砥面2面	表土	
Q 8	砥石	4.5	3.1	2.0	48.02	砂岩	砥面2面	表土	PL 6
Q 9	砥石	(5.4)	(2.4)	(0.9)	(15.94)	粘板岩	砥面2面	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 26	縦管	(5.5)	1.1	1.0	(4.66)	陶	吸口 口元長方形	SK756 覆土中	PL 6
M 27	縦管	8.0	1.0	1.0	11.89	陶	吸口 口元円形	表土	PL 6

第5節 まと め

1はじめに

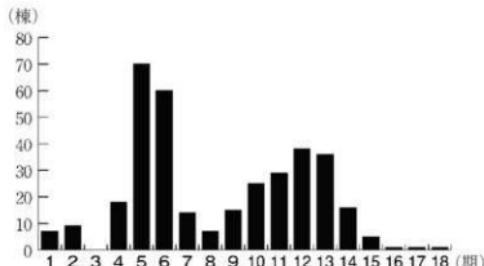
島名熊の山遺跡は、平成7年度から調査が実施され、これまでに『茨城県教育財團文化財調査報告』第120・133・149・166・174・190・214・236・264・280・291・322・328・360・380・389・390・403・431集において報告されている。今回の報告分を含めた総調査面積は264,424m²で、県内における最大規模の調査事例である。遺構数は、竪穴建物跡2,517棟、掘立柱建物跡415棟をはじめ、陥落穴6基、古墳2基、方形竪穴遺構108基、地下式坑81基、堀跡・溝跡394条、道路跡32条、井戸跡232基、大型竪穴遺構8基、火葬施設37基、墓坑82基、水田跡2か所、遺物包含層4か所などにのぼる。当遺跡は、4世紀から11世紀にかけて途絶えることなく生活が営まれ、律令期には「河内郡鳴名郷」の拠点集落として機能していた¹⁾。中世以降も堀や溝による区画や墓域、水田跡²⁾などが確認されており、連続と集落が存続してきたことがうかがえる。

今回、整理を行った調査区域は、遺跡北部の13区北西部及び14区北部の範囲で、標高19~22mの台地縁辺部の平坦面から緩斜面にかけてである。調査面積は合計4,233m²で、確認した遺構は、竪穴建物跡1棟、井戸跡1基、土坑108基、墓坑5基、溝跡11条、ピット群4か所である。これまでに、13区については当財團調査報告『第264集』、『第390集』において、14区については『第280集』、『第390集』において報告している。

以下、時期区分については、これまでの成果との整合性を保つため『第190集』に準拠し、第1期を4世紀、第2期を5世紀、第3~5期を6世紀、第6~8期を7世紀、第9~11期を8世紀、第12~14期を9世紀、第15~18期を10~11世紀とする。また、遺跡内の建物跡群の空間区分は『第291集』におけるA~F群の6群の区分に基づき考察を行うものとする。

2 13区・14区の竪穴建物跡数の概要

13・14区は、南側の谷Aを境にA群に区分され、当集落の最北部に位置する。これまでの調査結果から、A群における竪穴建物跡の時期別の変化をグラフ1に示した。A群は、第5期に最盛期を迎え、集落はA群全域に広がっていきつつ、南西部に密集している様相を見せている。第7期で急激に減少し、第10期に再び増加の傾向を示している。古墳時代に最盛期を迎え、一端衰退し、平安時代に再び増加傾向を示すのは島名熊の山遺跡の全体を通じた傾向と合致する³⁾。一方、遺跡の中央部よりも1世紀早く、第14期から衰退の傾向を示していることは既報告分の通りである¹⁾。

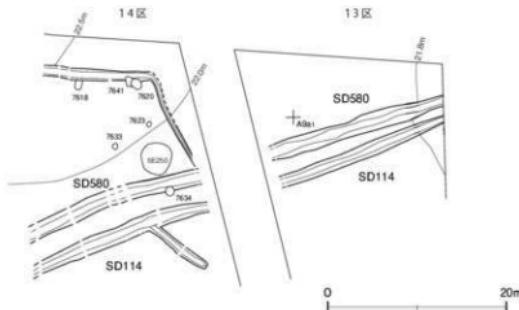


グラフ1 A群における時期別竪穴建物跡数

3 A群の区画溝について

既報告分を含めて第114・580号溝跡について考察する。第114号溝跡は、北方向に78.8m伸び、西方にL字状に屈曲し、99.8m伸びる全長178.6mを確認することができた。L字状の屈曲部分で「第264集」、「第390集」で報告した第120号溝跡を掘り込み、ほぼ同じ形状で西方向へ延伸している。今回の調査区内において、溝跡の北側に、第250号井戸跡や第7620号土坑をはじめとする廃棄土坑数基を確認したことから、集落における居住地と作業場等との区画、あるいは北西側・南東側の低地に向かう排水を兼ねた区画溝であると考えられる。

Ⓐ



第45図 溝跡と井戸跡・廃棄土坑の位置関係

第580号溝跡は、103.3m確認することができ、第114号溝跡とは最大2mの間隔をとり、その北側をほぼ平行するように走行している。以下に、第114・580号溝ほか、北部・西部に区画溝として位置する遺構の概略を図に示す。



第46図 A群北部・西部の区画溝の配置と各報告書の廃絶時期

溝の廃絶時期は、第46図のように各報告書で時期差がある。広範囲を区画する溝であることから、廃絶時期を決定しにくいのが現状である。『第390集』で報告した第580号溝跡では掘り替えしを確認しており、第114号溝跡も断面形状から同様の推察ができるところから、2つの溝はA群の北部から西部の境として、長期間使用されたものと考えられる。

また、第580号溝跡のA9a1区からは、6世紀代の土器が集中して出土している。しかし『第390集』で報告した出土遺物の時期は、須恵器(甕)の9世紀後葉である。6世紀代の土器は、掘り替えしが行われているということ及び埋め戻された層からの出土状況から、古墳時代の溝跡とは考えにくく、6世紀代の土器は、後世に廃棄された可能性が推察される。今回の報告では、2つの溝跡は8世紀後葉から9世紀前葉までの期間で何度かの掘り替えしを行いながら機能し、その後廃絶したと考えたい。

4 おわりに

今回は、13・14区の北部について報告してきた。13・14区内の一連の区画溝をまとめるにとどまっており、第114・580号溝跡が並行している部分の解釈についても不明である。今後13・14区の北側、及び14区の西側を新たに調査することで、今後の調査事例の増加とともに新たな情報の蓄積を期待したい。

註

- 1) 稲田義弘「熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書VII」『茨城県教育財团文化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 斎藤真弥・酒井雄一・渡邊浩実・松本直人・斎藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XV」『茨城県教育財团文化財調査報告』第291集 2008年3月
- 3) 註2に同じ
- 4) 酒井雄一・渡邊浩実・斎藤貴史・清水哲「島名熊の山遺跡 島名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XXI」『茨城県教育財团文化財調査報告』第280集 2007年3月

写 真 図 版



調査終了状況



第2249号竪穴建物跡
遺物出土状況



第580号溝跡
遺物出土状況



SD 580-16



SD 580-18



SD 580-17



SD 580-25



SD 580-26



SD 580-26



SD 114-12



遺構外-Q1



調査終了状況



第114・599号溝跡
遺物出土状況



第114・580・595・
600号溝跡

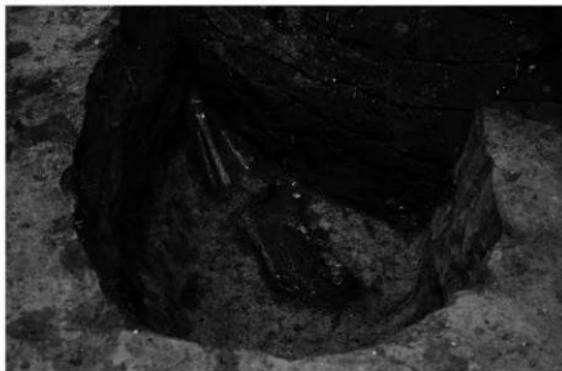
PL4



第 250 号 井 戸 跡
遺 物 出 土 状 況



第 7620 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第 7625 号 土 坑
遺 物 出 土 状 況



第250号井戸跡、第114・599号溝跡出土土器



第114号溝跡出土土器、土製品(勾玉)、石器(尖頭器・搔器・磨石・砥石)、金属製品(煙管)、錢貨

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Profession ServicePack1
編集 Adobe InDesign CS6
図版作成 Adobe Illustrator CS5
写真調整 Adobe Photoshop CS6
Scanning 6×7 film Epson GT-X980
画面類 imagio MP W4001
使用Font OpenType リュウミンPro・L
OpenType 太ゴB101 Pro
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS6でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第432集

島名熊の山遺跡

鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成30（2018）年 3月15日 印刷

平成30（2018）年 3月16日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38

TEL 0120-23-1473